

宜シク後章、屍體現象論ヲ参照スベシ。

外表的特長

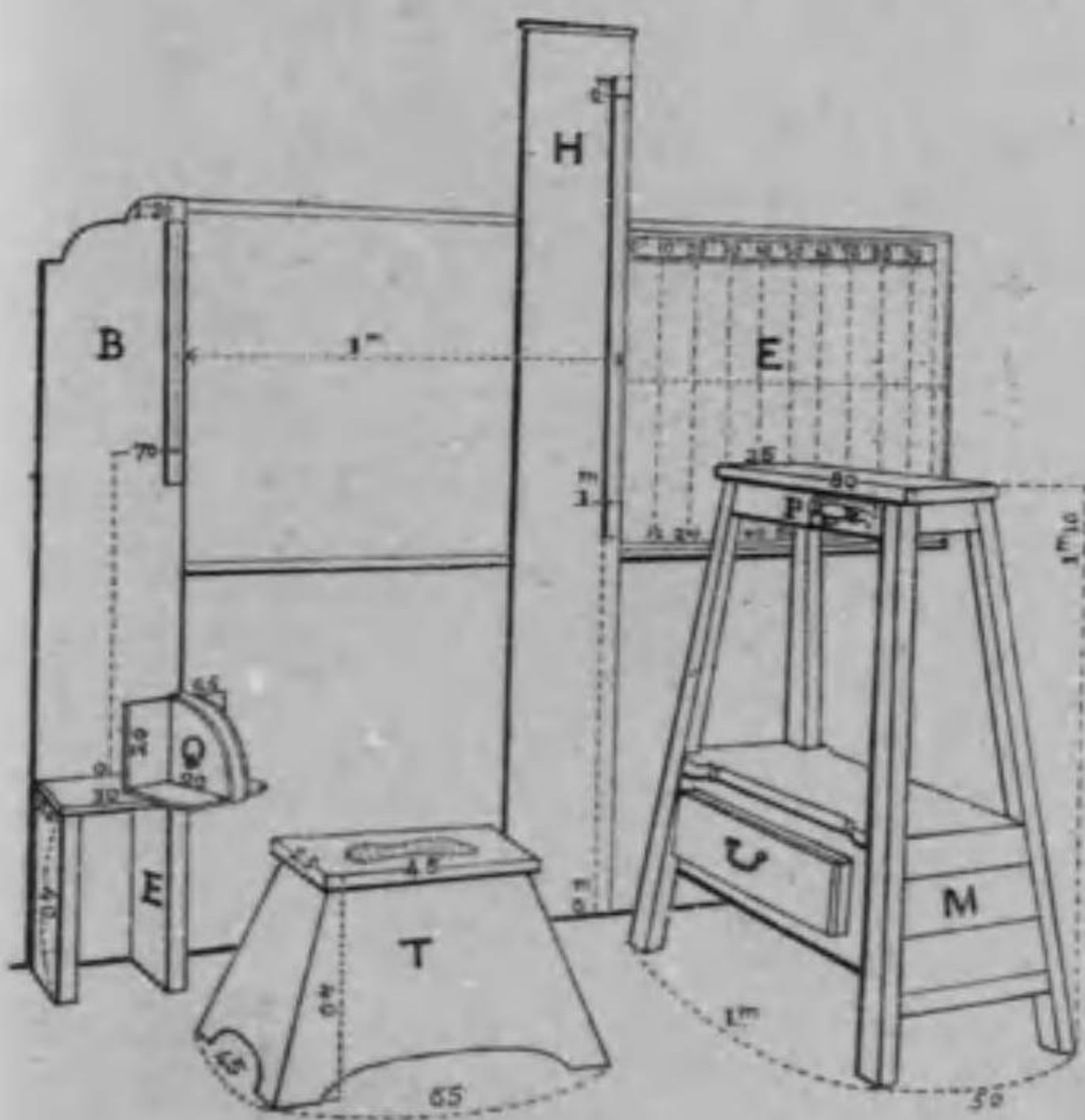
職業的特長

第四項 個人的特長 (Besondere Kennzeichen)

個人的特長ハ、異同識別中、最も重要ナルモノニシテ、文身 (Tätowierung) 灸痕、痘痕、アザ、ホクロ、其ノ他特異ナル癍痕 (Narbe) 耳翼、或ハ處女膜ノ形狀特異ナル

骨節例之、脊柱後彎症 (Kyphose) 等永存性ヲ有スル特長ハ悉ク此ノ資料トナスニ足ルベク、其ノ他永ク一定ノ職業 (Beruf) ニ従事スルニ因リテ、一定ノ特長ヲ生ズルモノアリ、疊職ハ肘ハ硬變、車夫ハ足筋ノ肥大等、其ノ例ナリ、然レドモ以上ノ如キ事實ノミヲ以テハ未ダ確實ニ人ノ異同ヲ定メ得ベカラザルガ

圖二十四 第 氏シロチルベ 器測計體身



ベルチロン 計測法

故ニ、ベルチロン (Bertillon) ハ、此ノ用ニ供スベキ一定ノ計測法ヲ案出セリ、即チ第四十二圖ニ概示セルガ如キ器械 (第四十二圖中ノ H) 第四十三圖 I ノ如ク

圖三十四 第 氏シロチルベ 法測計體身



身長計測ニ用ヒ、同 E ハ第四十三圖ノコノ如ク「上肢ヲ伸張セル長サ」ノ計測ニ用フ。B ハ坐高ヲ計ルニ用フルモノニシテ、ソレニハ

第四十三圖 3 ノ如ク E ノ上ニ腰ヲ掛ケシメ、Q ヲ以テ正シク頭ノ頂點ヲ支ヘタル位置ニ於テス。第四十三圖ノ 4 ハ頭ノ長サ、同 5 ハ頭ノ幅、同 6 ハ右側耳翼

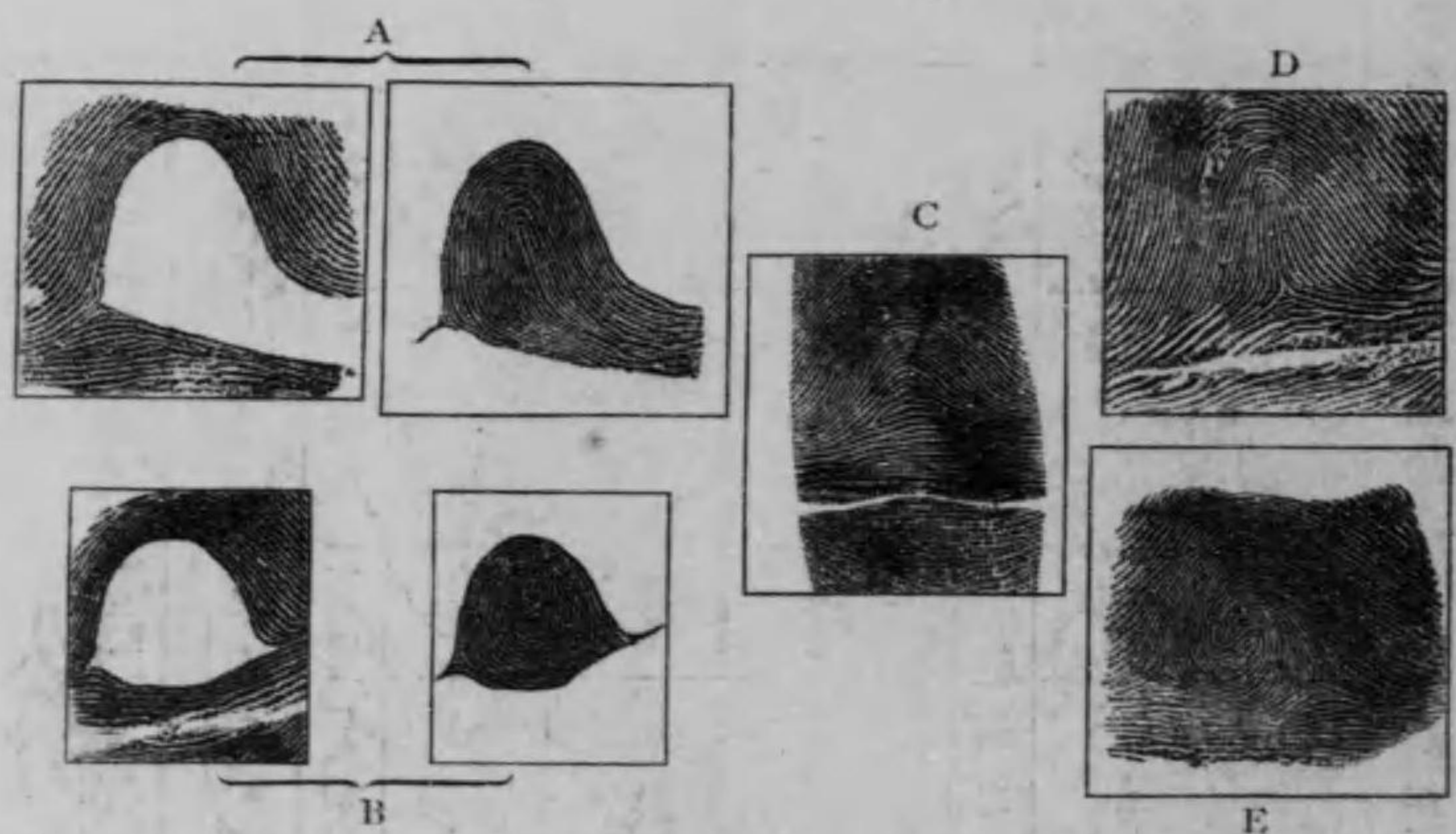
個人的特長

第四十四圖 眞寫ノ式



ノ高さ同8ハ左側中指ノ長サヲ計測セル狀ヲ示スモノニシテ第四十二圖以外ノ器具ヲ用フTハ左足ノ長サヲ測ル用ニ供シ其ノ側ニハ第四十三圖7ノ如クPノ把手ニ右手ヲ支ヘテ立ツコトヲ規定スMハ左側前膊ノ長サヲ第四十三圖9ノ如クニシテ計測スルニ用フル臺ナリ而シテ上記各器ハ圖中數字ヲ以テ示スガ如キ一定ノ寸法ニ作ラレタルモノナリ以テ第四十三圖ノ如クシテ身體ノ各部ヲ細密ニ計測シテ一定ノ様式ノ下ニ之ヲ記載シ尙ホ特別ノ裝置ヲ施シタル寫眞器ヲ

第四十五圖 指紋



(A)係蹄狀 (B)渦狀 (C)弓狀 (D)天幕狀 (E)二重蹄狀

個人的特長

以テ上半身ノ正面竝ニ右側面ヲ撮影シ(第四十四圖)置クナリ而シテ此ノ如ク兩側ヨリ撮影ヲ行フ所以ノモノハ即チ正面或ハ側面ノ何レカ一方ノ相酷似セルニ拘ラズ二者全ク別人ナルコト往々ニシテ之レ有リト雖別人ニシテシカモ正面竝ニ側面共ニ相酷似スルモノ殆ド之レ無キニ基ク

上記ノ方法ヲ考案者ノ氏名ニ因ミテ特ニBertillonageト稱ス又指紋法(Daktyloscopic)ト稱セラル異同識別法アリ之ハ手指ノ爪節腹面ニ於ケル乳頭

手					手				
右					左				
指	小	指	環	指	中	指	示	指	拇
狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀
狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧
指	指	指	指	指	指	指	指	指	指
狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧

手				手			
左				右			
指	中	指	示	指	中	指	示
狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧
指	指	指	指	指	指	指	指
狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧	狀蹄側骨棧

指紋ノ分類ト
記載

隆起線ノ種々ナル形状ヲ、係蹄狀(Schlingenförmig) 渦狀(Wirbel) 弓狀(Bogen) 及ビ天幕狀(Nel)ノ四型ニ大別シ(第四十五圖参照)之ヲ基礎トシテ其ノ排列如何ヲ分類記載スル方法ナリ。但シ手指乳頭隆起線ノ紋様ハ單ニ右記ノ四型ニ盡キズシテ或ハ其レ等ノ重複、混合セルモノ、例之、二重蹄狀(第四十五圖)ノ如キアリ、或ハ又其レ等ノ變形、例之、樅樹狀(Tannenförmig)ト稱セラレテ天幕狀ノ特ニ丈高キモノ、如キモアリ。而シテ本法ハコレ等諸型ノ十指ニ於ケル排列ハ各人相同ジカラズ、優ニ之ヲ以テ個人異同識別ノ資料ニ供シ得ベシト云フヲ原理トシ、

個人的特長

其ノ記載様式之ニ例六第四十六圖ニ示スガ如シ即チ先ヅ十指ヲ夫々別々ニ印肉ヲ以テ押印シ更ニ拇指ヲ除キタル左右ノ四指ヲ夫々同時ニ押印シ其ノ印像不鮮明ナルトモハ更ニ改メテ反復押印セシム且ツ稀ニ傷害或ハ畸形等ノ爲ニ式ノ如ク捺押スルコト能ハザルモノニアリテハ特ニ其ノ理由ヲ明記スベキコトヲ規定セリ。

此ノ指紋法ハ本邦ニ於テモ既ニ十數年來犯人ノ搜查竝ニ異同識別ノ目的ヲ以テ實施セラレテ相當ノ好成績ヲ示シツアリ蓋シ血液ヲ以テ汚染セラレタル手指ノ指紋ガ屢ニ犯行ノ現場ニ於ケル平滑ナル器物調度等ノ上ニ遺殘セラル、ノミナラズ汗、皮脂或ハ之ニ塵埃等ヲ混ジタル指紋モ亦其ノ儘ニテハ甚ダ不鮮明ナリト雖之ニ簡單ナル化學的操作ヲ加フレバ(例之八%ノ硝酸銀溶液ヲ塗布シテ二三分間日光ニ曝寫ス)直ニ之ヲ明瞭ナラシムルコトヲ得ベシ。

其ノ他同様ノ目的ヲ以テ手背ニ於ケル皮下靜脈ノ走向ヲ描寫スベシトシ或ハ眼底ニ於ケル血管ノ走向ヲ記載スベシ等種々ナル所説ヲ主張スルモノノ尠カラズト雖現今個人異同識別ノ法中最モ重キヲナスモノハ遂ニ上掲ノ兩

指紋ト犯罪

其ノ他ノ個人異同識別法

ベルチロンノ功績

法ヲ推サザルベカラズ。

是ニ於テ順序トシテ述ベザルベカラザルモノハベルチロン氏法ト指紋法トノ優劣如何ナリ抑、ベルチロンノ本法ニ於ケル根據ハ身體各部ノ計測數値ノ悉ク相一致スル者無シト云フニ在リテ上記ノ如ク身長、上肢ヲ延シタル長サ(Spannweite)座高(Sitzhöhe)頭ノ長サ及ビ幅、右側耳翼ノ長サ及ビ幅、左足ノ長サ、左側中指及ビ同側小指ノ長サ、竝ニ左側前膊ノ長サ等ヲ特ニ定メタル器具尺度等ヲ用ヒテ精密ニ計測シ(第四十二及ビ第四十三圖參照)自己ノ許ニ於テ特ニ其ノ計測方法ヲ習得セシモノニアラザレバ之ヲ行フコトヲ許サズ乃チ其ノ理論ハ一見人ヲシテ首肯セシムベキニ似タレドモ身體ノ發育既ニ完備シテ停止セルモノハ兔モ角尙ホ發育ノ過程ニ在ル壯者ニハ之ヲ用フルモ效無シ故ニベルチロンノ功績ハ本法ノ尊重スベキ點ニアラズシテ寧ロ其ノ難多ナル記載事項ヲ巧ニ分類シテ實用ニ適切ナラシメシ點ニ在ルベシ但シ煩ヲ避ケテ其ノ分類法ノ記載ヲ略ス。

之ニ反シテ指紋法ノ記載スル指紋ハ幼年ヨリ老年ニ至ル迄終始不變ニシテ、而シテ十指悉ク同排列ヲナスモノ無キコトハ前法ニ於ケルガ如シ且ツ簡

指紋法ノ優レ

個人的特長

單ニ之ヲ描寫スルコトヲ得ベク、記載事項モ亦甚ダ少シ、故ニ指紋法ハ、(一)記載事項ノ不變ナルコト、(二)計測法ノ簡單ナルコト、(三)多數ノ器械及ビ大ナル場所ヲ要セザルコト、(四)從テ經費少キコト等ニ於テ確ニベルチロン氏法ニ優ルニ似タリ。

第四章 屍體現象論 (Leichenerscheinung)

關係法規

◎醫師法

第五條 醫師ハ自カラ診察セズシテ診斷書、處方箋ヲ交付シ若クハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セズシテ檢案書若クハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ズ、

但シ診療中ノ患者死亡シタル場合ニ交付スル死亡診斷書ニ付テハ此限リニアラズ

◎醫師法施行規則

第九條 醫師死體、又ハ四箇月以上ハ死産兒ヲ檢案シ異常アリト認ムルトキハ二十四時間以内ニ所轄警察官署ニ届出ベシ

◎墓地及埋葬取締規則

死ノ徵候

第三條

死體ハ死後、二十四時間ヲ經過スルニ非ザレバ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ズ、但、別段ノ規則アルモノハ此限ニアラズ

生、死ノ境界ハ確實ニ之ヲ定メ難シ、通常呼吸運動並ニ心臟鼓動ノ停止ヲ以テ死ニ至レル徵候トナスモ、コハ少クトモ學術的ニ首肯シ得ベキ生死ノ境界ニアラズ、何トナレバ、呼吸止ムモ、心臟ハ尙ホ鼓動ヲ持續スルコトアリ、兩者共ニ止ムモ、筋肉ノ電氣ニ對スル作用、瞳孔ノアトロピンニ對スル作用、腸管ノ蠕動或ハ精囊中ノ精蟲等ハ尙ホ生前ト選ブ所無キコト些カラズ、以テ假死 (Sart-cintod) トノ區別難シ、往年バリ醫科大學ニ於テ「單純ナル死ノ徵候」ニ關スル一等二萬法ノ懸賞論文ヲ募集セル時モ、適切ナル解答ヲ與フルモノ無ク、僅ニ二等賞五千法ヲ六人ニ分與シテ止ミシト云フ、從テ屍體現象トハ如何ナル時期以後ニ、人體ニ起ル現象ヲ指示スルモノナリヤヲ確言スルコト能ハズ、茲ニハ唯、漠然ト所謂「死亡」ノ時以後ノコト、云フニ從フ。

屍體現象トハ、人ハ死後其ノ身體ニ起ル一般現象ヲ云フ、以下、就中、其ノ著明ナルモノニ二三ヲ記載セントス、冷却、強直、屍斑或ハ腐敗ノ如キ即チ是レナリ。

屍體現象

第一項 冷却及ビ乾燥 (Abkühlung und Vertrocknung)

體溫降下

冷却ニ關係アル諸條件

人ノ死スルヤ、體溫急劇ニ降下シテ、身體冷却スルヲ常トシ(春秋ノ候、著衣ノ儘、路上ニ横ハレルモノハ約三時間、屋内牀上ニ在ルモノハ約十乃至十二時間ニシテ、全ク體溫ヲ失フト云フモノモアリ)冷却ハ先ヅ四肢ノ遊離端等、身體ノ中心ヨリ遠ザカレル部分ヨリ始マル。而シテ冷却ハ、運速ハ年齢(小兒ハ身體ノ表面ノ容積ガ體量ニ比シテ大ナル故、早ク冷ム)、皮下脂肪層ハ厚薄、衣服ハ關係等ニヨリ、特ニ外圍ノ溫度ニ影響セラル、コト甚シ。故ニ冷却ノ速度ハ平均シテ、常態ニ於ケル室溫ノ下ニテ一時間ニ一度(攝氏)降下スト云フモ一概ニ之ヲ認容スルコト能ハズ。尙ホ窒息死ノ場合ハ冷却ノ速度比較的遲シト稱セラレ、又破傷風患者ノ如キ痙攣ヲ伴フモノニアリテハ、死後暫時體溫ノ上昇スルコト人ノ能ク知ル所ナリ、蓋シ冷却ハ多少病症ニモ左右セラル、モノハ、如シカクシテ遂ニ外界ノ溫度マデ冷却シテ所謂大理石様ノ冷タサ(Marmor-kälte)ト稱スル死者特有ノ状態ニ達シテ止ム。

乾燥

死者ニ於テハ、皮膚表面ヨリノ分泌機能停止セラレ水分ハ漸ク蒸散スルガ故ニ、外表一般ニ乾燥ニ傾ク、特ニ生前濕潤セル部位ニ於テ顯著ナリ、眼球角膜ノ漏濁(Cornealkribung)シ且ツ收縮スルガ如キモ其ノ一例ニ過ギズ、又糜爛ニ傾ケル部分ハ乾燥ニ依リテ黒褐色ニ變ズ、小兒ノ口唇、肥大漢ノ股間等ノ剖檢時屢、黒色ナルヲ見ルト第一章ノ冒頭ニ注意セルハ即チコレナリ。

第二項 血液沈降 (Hypostase)

屍斑

屍斑ノ經過及條件

死後心臟ハ鼓動止ムトキ、流動性ヲ有スル血液ハ自己ノ重量ニヨリテ漸次屍體ノ低位部ニ沈降堆積ス、之ヲ血液沈降ト云フ(卷末圖第一參照)而シテ血液沈降ヲ分ツテ二トス、即チ内部血液沈降及ビ外部血液沈降 (Innere und äussere Hypostase) ニシテ、就中、外表ヨリ認メ得ベキ外部血液沈降ヲ通常屍斑 (Totenfleck) ト稱ス。之ト皮下出血ト區別スベキコトハ既ニ其ノ項ニ於テ盡セリ。屍斑ハ通常死後、一、二時間ヨリ低位ノ外表ニ生ジ始メ、最初ハ島嶼狀ニ散在セル小ナル紫藍色ノ不正形斑紋ヲナセドモ、時ヲ經ルニ從ヒ、漸次増大シ、合一シテ低面全部ニ普遍スルニ至ル。即チ血液ヲ外表ヨリ透見スルモノナレドモ

冷却及ビ乾燥 血液沈降

皮膚ヲ透過スルガ故ニ藍色ノ調ヲ呈スルナリ而シテ其ハ強弱如何ハ血量ハ多寡一定ノ位置ヲ採ルル時間ハ長短及ビ血液ノ液状ニ保タルハ程度如何等ニ關ス。縊死者ニ於テハ血液多クハ非凝固性ナルガ故ニ血液沈降顯著ナルコト又其ノ項ニ詳述セルガ如シ。

異常ナル屍斑

屍斑ノ色ハ普通ハ右記ノ如キモ時有リテ異常ノ觀ヲ呈ス。寒冷ニ曝露セル屍體ニアリテハ鮮紅色トナリ(凍死ノ項參照)青酸加里或ハ酸化炭素ハ中毒屍ハ何レモ特ニ赤ク之ニ反シテ硫化水素中毒屍ハ帶褐汚綠色トナル等何レモ中毒編ニ説ケルガ如シ。而シテ貧血者或ハ出血ニ因ル死者ノ屍體ニ在リテハ屍斑ヲ缺如スルヲ普通トス。

屍斑移動

屍斑ハ衣服等ニテ比較的強ク加壓セラル、部分ニ限り屢之ヲ缺キ偶然其ノ形線狀ニシテ頸部ニ位スルモノハ或ハ索溝ト誤認スルコトアリ。又一旦之ヲ生ズルモ數時間以内ニ屍體ノ位置ヲ變ズルトキハ再ビ新シキ位置ニ於ケル低部ニ血液ガ移動シテ前回ノ屍斑ハ消失シ去ルモ屍斑ガ生ジテヨリ半日乃至一日以上ヲ經過シタル後變位スルモ最初ノ斑紋ハ遂ニ消失スルコト無シ。

内部血液沈降

内部血液沈降ハ種々ナルハ内臟等ニ著シクタトヒ肉眼ヲ以テ認識シ得ザルモ顯微鏡的ニハ明視セラル、場合多シ例之仰臥セル(Rückenlage)屍體ニアリテハ腦ニモ肺ニモ背側ノ半部ニ血液ノ多ク蓄積セラル、ガ如シ。

第三項 死體強直(Totenstarre)

強直ノ經過

死後若干時間ヲ經過スレバ死屍ハ到ル處放置セラレタル位置ニ固定シテ筋肉ハ破碎シ易クナリ關節ハ屈伸共ニ不能トナル。此ノ現象ヲ死體強直ト稱シ其ノ後更ニ一定時間ヲ經過スレバ死屍ハ再ビ舊ノ如ク柔軟ニ歸リテ關節ハ自由ニ屈伸シ得ル様ニナル。而シテ關節ノ強直ハ通常下顎ニ始マリ項部其ノ他軀幹ノ關節之ニ次ギ最後ニ四肢ノ諸關節ニ及ビ其ノ去ルトキニモ亦上記ノ順次ニ從フ。且ツ其ノ經過ハ緩慢ニシテ成人ニアリテハ死後二乃至四時間ヨリ始マリ八乃至十時間ニシテ全身ニ及ビ其ノ全ク復舊スル迄ニハ死後七八十時間ヲ要ス。但シ病症ニヨリテ其ノ經過一ナラズ腎臟炎ノ患者ノ如キハ其ノ去來共ニ早シト云フ。蓋シ筋肉ニ變性アル場合ニ於テハ強直ヲ起スコト弱キニヨルナルベシ。破傷風患者ニハ之ニ反シテ強直強ク且ツ長シ。

死體強直ハ又外圍ノ溫度及ビ年齡ニヨリテ相違アリ即チ溫暖ナレバ急速ニシテ寒冷ナレバ緩慢ニ小兒ニ於テハ往時ニ於テ小兒ニハ強直無シト信ゼラレタル迄ニ強直時間短小ナリ而シテ殺兒論ニ云ヘルガ如キ胎内ニ於テ浸蝕セラレタル死兒(Mazeherte Frucht)即チ浸軟兒ニハ之ヲ起スコト無シト稱セラル

屍體強直ノ起因ハ不明ニ屬シ諸家ノ見解未ダ一致スル所無シ以上ノ諸現象ハ死後比較的速ニ來ル而シテ最後ニ來ルモノハ腐敗ナリ

第四項 腐敗 (Fäulnis)

腐敗ハ即チ狭義ニ於ケル屍體現象ニシテ通常ノ場合ニ死屍ノ探ルベキ最後ノ過程ナリ腐敗トハ人體ヲ構成セシ複雑ナル有機物が還元ニヨリテ單純ナル無機物ニ復歸スルハ義ナリ而シテ今日ニ於テハ其ノ急劇ニシテ甚ダ煩雜ナル化學的變化ハ未ダ殆下全ク闡明セラレ居ラズ

腐敗ノ第一歩ハ屍斑ノ色ヲ汚穢ナラシメ且ツ四方ニ擴大セシメ次デ屍體ヲ汚褐色ヨリ暗綠色ニ變ゼシムルニ在リ(卷末第一圖ノ屍體腹部ノ色ヲ看ヨ)

尚ホ多量ノ腐敗瓦斯 (Fäulnisgas) ヲ生ズルガ爲ニ屍體ハ生前ト著シク其ノ容貌竝ニ外形ヲ變ジテ屢全ク別人ノ觀ヲ呈スルニ至ルコトアリ而シテ其ノ變化甚ダ急速ナルガ故ニ此ノ際異同識別ノ上ニ注意ヲ要ス屍體氣腫 (Fäulnisphlysem) 即チ是レニシテカハル外貌ヲ Gigantisches Aussehen (巨人的外貌ノ意) ト云フ但シ此ノ如キ屍體ハ之ヲヨク水ヲ以テ洗滌スルコトニヨリテ一定度迄原形ニ復セシムルヲ得ベシ次デ皮下ノ氣胞ハ外皮破レテ内容ヲ洩シ美シキ内層ハ皮膚ヲ露出シテ再ビ別人ノ觀ヲ呈セシムルコトアリ又屢腐敗ノ爲ニ一帯ニ血液ヲ以テ汚染セラレテ出血ニヨル死亡ト酷似セルコトモアリ而シテ柔軟ニシテ濕潤セル部位ヨリ順次ニ粥狀ニ變化シ關節亦離開シ遂ニハ液體トナリテ唯骨片ノミヲ貽スヲ通常トス

腐敗現象ハ遲速ハ外圍ノ溫度及ビ湿度ハ勿論身體自身ハ血ノ多寡ニ關係シ且ツ空氣ノ存在ヲ必要トス加之衣服ノ有無ニモ亦些カラザル關係アリテ裸體ノ部分ハ腐敗スルコト甚ダ急速ナリ真空中ニ於テハ腐敗起ラズ空中ニ於テハ速ニ土中ニ於テハ遲々トシテ腐敗シ又等シク土中ニ在リテモ棺ノ種類(木製、金屬製等)ニ大ナル關係アリ湿度ノ如何ニヨリテハ腐敗セズシテ或

ハ木乃伊トナリ、或ハ屍蠟トナルコト後項ニ説クガ如シ。
 腐敗ハ以上ノ如キ外的條件ニヨルノミナラズ、又年齢、體質、性或ハ一定ノ病症等種々ナル内的條件ニモ關係アリ。特ニ中毒死ノ如キニ至リテハ、或ル種ノ毒物、例之、魔酔劑等ニヨルモノハ著シク、腐敗急速ナルニ反シ、或ル種ノ毒物、例之、防腐劑又ハ砒素劑等ニヨル者ニアリテハ著シク緩徐ナルノ差異特ニ著シキヲ認ム、又同一人ニ於テモ、或ル部ハ速ニ腐敗シ、或ル部ハ遅シ、例之、脾臟、肝臟等ハ速ニシテ、子宮ノ如キハ特ニ遅シ、又同一ノ臟器ニテモ、胃腸等ノ如キハ内容ノ存否ニヨリテ遅速アリ。體質關係ノ例トシテハ、小兒ト大人トノ別ヲ舉グ。カスベル(Casper)ハコレ等ヲ參酌シ、自己ノ經驗ニ基キテ人體腐敗ノ順位ヲ定メタリ、即チ其ノ云フ所左ノ如キモ、常ニ必シモ然ラザルニ似タリ。

- 氣道——小兒ノ腦髓——消化管——脾臟——腎臟——肝臟——大人ノ腦髓——心臟——肺臟——膀胱——血管——子宮——靱帶及ヒ腱——骨格。

第五項 特異ナル現象 (Abnorme Leichen-erscheinung)

通常ノ場合ニアリテハ、屍體ハ腐敗シテ其ノ形態ヲ失フモ、稀ニ或ル特殊ナル條件ハ下ニアリテハ、特異ナル現象ヲ呈シテ、永ク原形ヲ保存スルコトアリ。木乃伊及ヒ屍蠟ノ如キモノ即チ是レニシテ、實驗的ニモ、コレ等ヲ製作スルコトヲ得。

(甲) 木乃伊 (Mumie)

木乃伊ハ、外圍竝ニ身體自身ガ共ニ水分ニ乏シキ場合ニ於テ、生ジ、本邦ニモ其ノ例些カラザルモ、古來世界ニ名高キハ、エヂプトノ木乃伊ナリ、(第四十七圖)是レエヂプトノ地ガ單ニ土地乾燥シテ木乃伊ノ成立ニ便宜ナルノミナラズ、

第四十七圖
 西曆前約六百五十五年於
 ケエルブトノ木乃伊



木乃伊

第十四八圖 (男) 伊乃木



シ、個人ノ異同識別ノ上ニ屢、錯誤ヲ生ズル場合アリ。第四十八圖ハ木乃伊ノ一例ノ寫真ナリ。

(乙) 屍蠟 (Leichenwachs, Leichenfett, Adipocire, oder Fettwachs)

宗教上、靈魂ノ輪廻ヲ信ジタル此ノ地ノ住民ガ、靈魂ノ宿ルベキ屍體ヲ保存センガ爲ニ、古代ヨリ此ノ地ニ發達シ居タル科學ヲ應用シテ、屍體ニ今日不知ノ藥品ヲ用ヒ、又特殊ナル操作ヲ加ヘ、布片ニ纏絡シテ丁重ニ之ヲ保存セシニ因ルナリ。

木乃伊ハカクノ如クシテ成ルガ故ニ、火傷死ノソレノ如ク生時ニ比シテ著シク羸瘦セル觀ヲ呈

屍蠟

第十四九圖

死 蠟 右 左 圖 後 前 左 右 側 面 (面)



特異ナル現象

屍蠟ハ、バリノ合葬墓地ニ始メテ發見セラレタルモノニシテ、本邦ニモ其ノ例甚ダ多ク、一般ニ屍體ガ、全ク水中ニ浸漬セラレテ、空氣ニ觸レザル場合ニ屢、生シ、木乃伊ニ比スレバ、遙ニ能ク原形ヲ保チ、軟部ハスベテ石鹼或ハ蠟様ノ觀ヲ呈スル物質ヨリナルガ故ニ、一ニ又之ヲ鹼化屍體 (Verseifende Leiche) トモ云フ。第四十九圖ハ、安政二年中、七十一歳ニテ死亡シタル肥滿セル男子ノ屍ニシテ、爾後四十四年間ヲ茨木縣某地ナル粘土層ニ圍繞セラレテ浸水シ居タル地中ニ在リ、明治三十一年ニ至

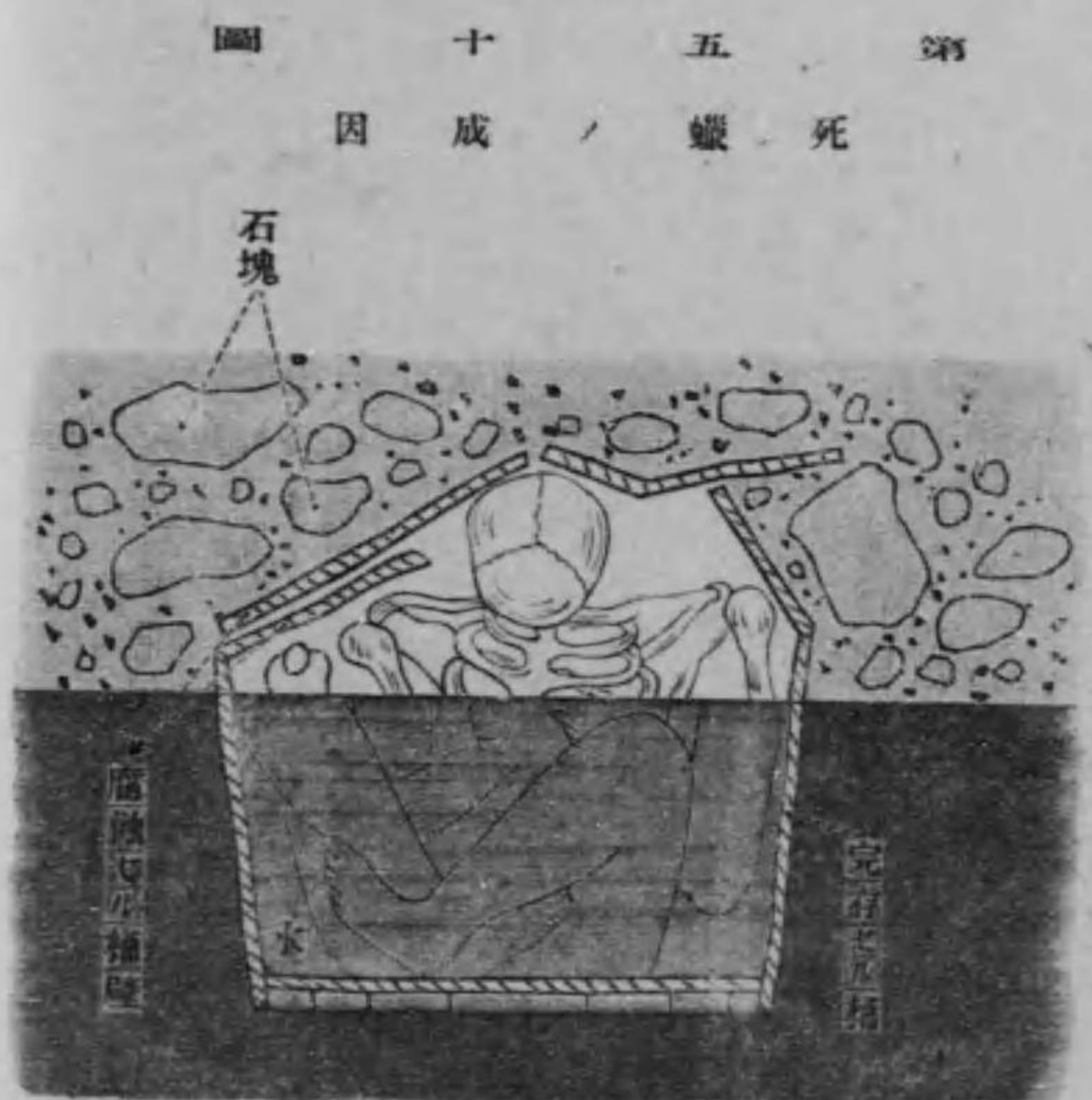
興味有ル一例

リ屍蠟トシテ發掘セラレタルモノナリ本圖ニヨリテ屍蠟ナルモノ、如何ナル形態ヲナセルモノナルカヲ略推知スルヲ得ベシ

明治三十七年中神戸市ノ共同墓地ニ於テ發見セラレタル屍蠟ハ、第五十圖

砂礫層

粘土層



死蠟ノ成因

ノ如ク棺ノ一部ノミガ水ヲ以テ満サレ居タル爲、屍體ノ上半ハ腐敗シテ骨ノミヲ貽シ、下半ノ浸水部ハ屍蠟化シテ、兩者ノ境界ハ、恰モ利刀ヲ以テ截斷セルガ如ク水面ニ沿フテ一直線ニ區割セラレ居タリト云フ(山根正次氏著、日本火葬論ニヨル)

屍蠟化ハ概シテ脂肪ニ富メル部分ヨリ生ズルコト多ク、從テ嬰兒ノ屍體ヨリハ試験的ニ容易ニ之ヲ製作シ得ベシ、即チ一種ノ脂

肪變性(Fetide Degeneration)トモ見ルヲ得、三田(定則)博士ノ研究ニヨレバ、屍蠟ガ屍體ニ既存セル脂肪ヨリ産出スルコト、疑フベクモアラズ。而シテ屍蠟ヲ構成スルモノハ、脂肪酸及ビ其ノ鹽類、並ニステアリン酸ノ誘導化生物ナルアルファ、モノオキシ、ステアリン酸(α Monooxystearinsäure)等ナリト云フ。

第五章 法醫學的精神異常論 (Forensische Psychopathologie)

法醫學的ニ必要ナル精神異常ノ諸問題ハ、之ヲ刑法上及ビ民法上ノ兩者ニ大別スベク、就中、刑法上ノ問題ハ、屢種々ナル疑問ヲ惹起ス。

第一項 刑法上ノ問題 (Strafrechtliche Frage)

刑法上ノ問題種々アル中、最モ屢逢著スルモノハ左ノ四者ナリ。

- (甲) 責任能力 (Zurechnungsfähigkeit)
- (乙) 審理能力及ビ證言能力 (Verhandlungsfähigkeit und Zeugnisfähigkeit)
- (丙) 創傷ニ起因スル精神的障碍 (Traumatische Geistesstörung)

刑法上ノ類發問題

刑法上ノ問題

(丁) 精神病者ニ對スル犯罪 (Verbrechen an Geistesgestörte)
而シテ責任能力ノ問題ハ、即チ精神異常者ノ犯罪行為ヲ包含シ、吾人ノ日常、
最モ屢々遭遇スルモノナリ。

(甲) 責任能力 (Zurechnungsfähigkeit)

關係法規

參照 ◎ 刑法 第七章 犯罪ノ不成立及ビ刑ノ減免

第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ、爲シタル行為ハ之ヲ罰セズ

第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ、自己又ハ他人ハ、權利ヲ防衛スル爲メ、己ムコトヲ得ザルニ出デタル行為ハ、之ヲ罰セズ。
防衛ノ程度ヲ超エタル行為ハ、情狀ニ因リ、其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十七條 自己又ハ他人ハ、生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ハ危難ヲ避ケル爲メ、己ムコトヲ得ザルニ出デタル行為ハ、其行為ヨリ生ジタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エタル場合ニ限り、之ヲ罰セズ、但其程度ヲ超エタル行為ハ、情狀ニ因リ、其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
前項ノ規定ハ、業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セズ

第三十九條 心神喪失者ハ、行為ハ之ヲ罰セズ

心神耗弱者ハ、行為ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條 瘖啞者ハ、行為ハ之ヲ罰セズ、又ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條 十四歳ニ滿タザル者ハ、行為ハ之ヲ罰セズ

◎ 刑法施行法

第四十八條 刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ、左ノ二條ヲ加フ

第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ、檢事及ビ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ、死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ズ、但檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラズ

第三百十八條ノ三 死刑ハ、言渡ヲ受ケタル者、心神喪失シタルトキハ、司法大臣ノ命令ニ因リ、其瘡癒ニ至ルマデ執行ヲ停止ス(下略)

第四十九條 刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ、左ノ一項ヲ加フ
懲役、禁錮又ハ拘留ハ、言渡ヲ受ケタル者、左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ、其事
故ノ止ムマデ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得
一 心神喪失ハ、状態ニ在ルトキ
二 刑ノ執行ニ因リ、生命ヲ保ツコト能ハザル虞アルトキ(下略)

責任能力トハ、責任ヲ負フコトヲ得ベキ能力ナルガ故ニ、責任能力ヲ有スル

刑法上ノ問題

責任能力

モノトハ、即チ刑罰制裁ヲ負擔スルニ適當ナル程度ニ成育シ、且ツ健全ナル精神状態ニ在ルモノヲ云ヒ、然ラザルモノハ責任能力ヲ有セズ (Urechnungsfähig) ト云フ而シテ其ノ無能力者ニ於テハ犯罪成立セザルモノニシテ(第五十一圖)

我ガ刑法ニ於テハ此ノ無能力者ヲ分チテ左ノ三種トス。

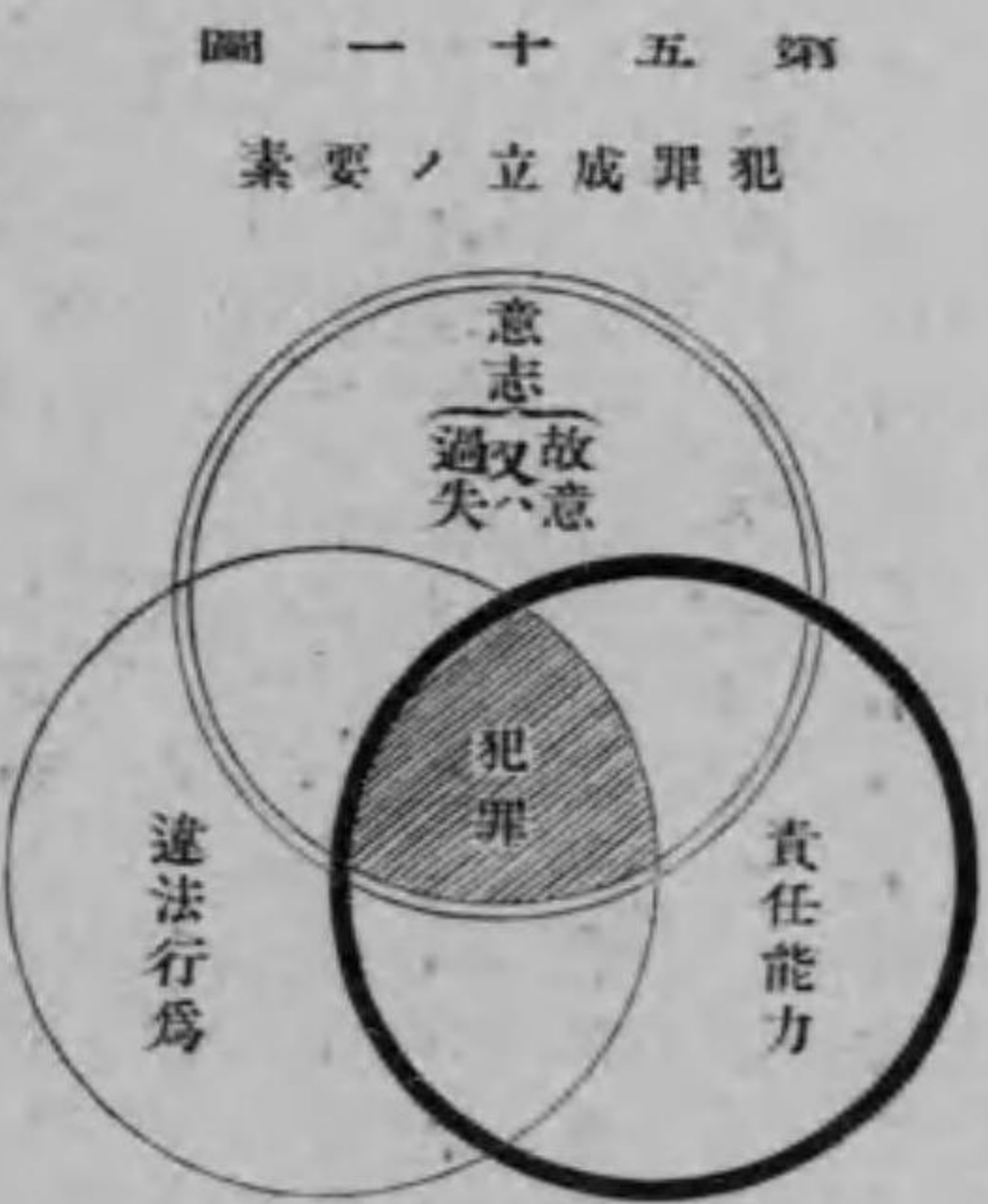
(一)心神喪失者(第三十九條)

附、心神耗弱者(責任能力薄弱ナル者)(同條)

(二)瘖啞者(無能力或ハ薄弱者)(第四十條)

(三)幼者(十四歲未滿)(第四十一條)

(一)心神喪失者トハ、意志決定ノ自由ヲ失ヘル程度ニ於ケル精神異常者即チ精神錯迷ノ状態若クハ無意識ノ状態ニ在ル者ニシテ、心神耗弱者トハ其ノ異常程度比較的輕ク、犯罪誘導ハ心的刺戟ニ抵抗スル力ハ微弱トナリタル状態 (Verminderte Zurechnungsfähigkeit)ニ在ル精神異常者ヲ意味ス、即チ兩者共ニ法律上



第五十一圖 犯罪成立ノ要素

ノ用語ニシテ、醫學上、特ニ精神病學上ノ用語ニアラズ、從テ或ル一定ノ病因、或ハ病況ニ依テ兩者ヲ劃然ト區分スルコト能ハズ、兩者ノ境界ハ單ニ程度問題ナリ。換言スレバ、必シモ精神病學上一定セル精神病者ナルヲ要セズ、故ニ單ニ酩酊或ハ催眠ノ状態ニ在ル精神健全者ト雖、其ノ犯行當時ニ於ケル意志決定ノ自由ヲ喪失、或ハ減弱セル程度ノ如何ニ依リテ、或ハ心神喪失、或ハ心神耗弱ト稱スルコトヲ得ベク、又精神病學上、同一ノ部類ニ包含セラル、白癡(Idiot)及ビ癡呆(Imbecill)ノ如キモ、一ハ心神喪失ニ他ハ心神耗弱ニ區別セラル、コト屢アリテ、到底精神病學上ニ所謂某病患者ハ喪失者、某患者ハ耗弱者等ト區分ヲ定ムルコト能ハズ、而シテ精神異常ニ關シテ常ニ提出セラル、問題ハ、犯行當時ニ於ケル精神状態如何ニ在リテ、單ニ現在ニ於ケル精神状態ノミニアラザルガ故ニ、例之、癲癇頻發症(Staus epilepticus)或ハ定期性躁狂(Periodische Manie)等ノ如ク、間歇性ニ精神状態ノ變化スルガ如キモノニ於テハ、特ニ慎重熟慮シテ病況ノ經過ヲ觀察シタル後、始メテ鑑定ヲナサザルベカラズ、且ツ常ニ一件記録(Akten)ヲ精讀シテ犯罪ノ動機、犯行ノ性質、犯行ノ被告ニ對スル利害關係、犯行ノ時期、犯行當時ニ於ケル外圍ノ狀況等ヲモ商量シテ其ノ任務ヲ全フス

テ、證言能力トハ、審問ニ際シテ、信憑シ得ル程度ニ正確ナル證言ヲナシ得ベキ能力ヲ云フ而シテ此レ等兩者ニ關スル法規ハ左ノ如シ。

(一) 審理能力ニ關スル法規

參照 ◎ 刑事訴訟法 第四編 第一章 通則

第七十九條ノ二

左ノ場合ニ於テ被告人自ラ辯護人ヲ選任セザルトキハ、裁判所ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ付スルコトヲ得

第一 被告人十五歳未満ナルトキ

第二 被告人婦女ナルトキ

第三 被告人聾者又ハ啞者ナルトキ

第四 被告人精神病ニ罹リ又ハ意識不十分ナルハ疑アルトキ

第五 被告事件ノ模様ニ因リ、裁判所ニ於テ辯護人ヲ必要ナリトスルトキ
前項ノ辯護人ハ、裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ選任スベシ、但辯護士一名ヲシテ、被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得三十二年法律第七十三號ヲ以テ本條追加)

第八十三條

被告人精神錯亂又ハ疾病ニ因リ出頭スルコト能ハザルトキハ、痊癒ニ至ルマデ辯論ヲ停止ス、但罰金以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ、被告人

代人ヲ差出シタルトキハ此限ニ在ラズ

辯論ニ取掛リタル後被告人精神錯亂シタルトキハ、其痊癒ノ後新ニ辯論ヲ爲ス可シ、其他ノ疾病ニ罹ルトキハ、痊癒ノ後、前ニ停止シタルヨリ以後ノ手續ヲ爲ス可シ、但五日間辯論ヲ停止シ又ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求アリタルトキハ、新ニ辯論ヲ爲ス可シ

若シ被告事件及ビ法律ノ適用ニ付キ既ニ辯論ヲ終リタルトキハ、其痊癒ノ後更ニ取調ヲ爲スコトナク裁判ヲ爲ス可シ

(二) 證言能力ニ關スル法規

參照 ◎ 刑事訴訟法 第三編 第三章 第六節 證人訊問

第二百三條

左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サズ、但宣誓ヲ爲サシメズシテ事實參考ノ爲メ、其供述ヲ聽クコトヲ得

第一 民事原告人

第二 民事原告人及ビ被告人ノ親屬、但姻族ニ付テハ、婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同ジ

第三 民事原告人及ビ被告人ノ後見人又ハ是等ノ者ノ後見ヲ受クル者

第四 民事原告人及ビ被告人ノ雇又ハ同居人

第二百二十四條 左ニ記載シタル者、亦前條ニ同ジ

- 第一 十六歳未満ハ幼者
- 第二 知覺精神ハ不十分ナル者
- 第三 瘖啞者
- 第四 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者
- 第五 重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ付キ公判ニ付セラレタル者
- 第六 現ニ供述ヲ爲ス可キ事件ニ付キ曾テ訴ヲ受ケ、其證憑十分ナラザルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者

右記ノ諸法條ヲ熟讀スレバ、證言能力ハ審理能力ヨリモ、更ニ一段高等ナルモノトセルヲ認ムベシ。即チ審理能力ハ十五歳、證言能力ハ十六歳ヲ以テ境界トシ、兩者ノ間、明ニ一歳ハ差違ヲ存ス。

(丙) 創傷ニ起因スル精神的障碍
(Traumatische Geistesstörung)

身體ハ一部ニ受ケタル創傷ガ直接、或ハ間接ハ原因トナリテ、精神的障碍ヲ

創傷ニヨルモ
ノト其ノ素因

非創傷性ノモ
ノト其ノ素因

誘發スル場合アリ。例之、頭部ヲ毆打セラレタル爲、或ハ足部ニ受ケタル創傷ヨリ病原菌ノ侵入セル爲等ノ原因ニヨリテ精神的障碍ヲ惹起スルガ如シ。而シテ頭部ニ於ケル損傷ヲ貽サレ程度ノ打撲又、或ハ既ニ述ベタル精神的傷害 (Psychische Traumatika) 即チ所謂「ショック」ニ起因スル精神的障碍ハ、通常全ク健全ナル精神状態ニ在リシモノニ來ルコト稀ニシテ、多クハ遺傳 (Heredität) 既存セル微毒性腦疾患 (Luetsche Gehirkrankheit) 或ハ酒精中毒 (Alkoholismus) 等何等カノ素因 (Disposition) ヲ有スルモノニ突發スル場合多キコトヲ、鑑定人トシテ被告ノ利益ノ爲ニ鑑定中ニ追加スベキ場合多シ。

(丁) 精神異常者ニ對スル犯罪 (Verbrechen
an Geistesgestörte)

參照 ◎刑法 第二十二章 猥褻姦淫及ビ重婚ノ罪

第七十六條

十三歳以上ハ男女ニ對シ、暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス、十三歳ニ滿タザル男女ニ對シ、猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同ジ

刑法上ノ問題

第七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ、十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ、強姦ノ罪ト爲シ、二年以上ノ有期徒刑ニ處ス。十三歳ニ滿タザル婦女ヲ姦淫シタル者亦同ジ。

第七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘ジ、又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ、若クハ抗拒不能ナラシメテ、猥褻ノ行爲ヲ爲シ、又ハ姦淫シタル者ハ、前二條ノ例ニ同ジ。

第七十九條 前三條ハ、未遂罪ハ之ヲ罰ス。

第八十條 前四條ノ罪ハ、告訴ヲ待テ之ヲ論ズ。

第八十一條 第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ、因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ、無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス。

◎刑法 第三十六章 竊盜及ビ強盜ノ罪

第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ、其財物ヲ盜取シタル者ハ、強盜ヲ以テ論ズ。◎同上 第三十七章 詐欺及ビ恐喝ノ罪

第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘ジテ、其財物ヲ交付セシメ、又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ、十年以下ノ懲役ニ處ス。

等

幼者或ハ精神異常者ニ對スル犯行ニ關シテハ、右ノ如ク特別ノ規定アリ。即チ成年ノ精神異常者或ハ十三歳未滿ノ幼者ニ對シテハ、タトヒ其ノ承諾ヲ經タル後ニ於テスト雖、其ノ猥褻或ハ姦淫ノ行爲ハ、精神健全者ニ對シテ、之ニ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘ、或ハ其ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘ジテ、敢行セラル猥褻或ハ姦淫ノ行爲ト、同一ノ制裁ヲ受クベキモノナリ。而シテ其ノ行爲未ダ完了セズトモ、尙ホ其ノ制裁ヲ免レズ(第七十九條)其ノ他詐欺、竊盜或ハ強盜等ニ關スルモノハ、特ニ説明ノ必要無カルベキカ。

第二項 民法上ノ問題 (Civilrechtliche Frage)

(甲) 禁治產及ビ準禁治產 (Entmündigung und Quasi-entmündigung)

民法上ノ問題トナル法醫學的精神異常ニ關シテハ、其ノ方面ハ甚ダ多岐ナリト雖、要スルニ處分能力 (Dispositionsfähigkeit oder Verfügungsfähigkeit) ノ一ニ歸著ス。例之、訴訟能力、損害賠償等ノ如シ、而シテ此レ等民法上ノ諸能力ハ精神異常

處分能力

民法上ノ成年

民法上ノ問題

無キモノガ成年(Mündigkeit)ニ達スルニヨリテ享有セラル。換言スレバ精神異常者或ハ未成年者ハ處分能力無ク或ハ之ヲ缺クモノトシテ、民法上、禁治産者或ハ準禁治産者ヲ以テ目セラル。

關係法規

參照 ◎民法 第二節 能力

第三條 滿二十年ヲ以テ成年トス

第七條 心神喪失ハ常況ニ在ル者ニ付テハ、裁判所ハ本人、配偶者、四親等内ノ親族、戸主、後見人、保佐人又ハ檢事ノ請求ニ因リ、禁治産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

第八條 禁治産者ハ之ヲ後見ニ付ス

第九條 禁治産者ハ行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十條 禁治産ハ原因止ミタルトキハ、裁判所ハ第七條ニ掲ゲタル者ノ請求ニ因リ、其宣告ヲ取消スコトヲ要ス

第十一條 心神耗弱者、聾者、盲者及ビ浪費者ハ準禁治産者トシテ、之ニ保佐人ヲ附スルコトヲ得

第十二條 準禁治産者ガ左ニ掲ゲタル行爲ヲ爲スニハ、其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一 元本ヲ領收シ又ハ之ヲ利用スルコト

二 借財又ハ保證ヲ爲スコト

三 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト

四 訴訟行爲ヲ爲スコト

五 贈與和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト

六 相續ヲ承認シ又ハ之ヲ拋棄スルコト

七 贈與若クハ遺贈ヲ拒絕シ又ハ負擔附ノ贈與若クハ遺贈ヲ受諾スルコト

八 新築、改築、増築又ハ大修繕ヲ爲スコト

九 第六百二條ニ定メタル期間ヲ超ユル賃貸借ヲ爲スコト

裁判所ハ場合ニ依リ準禁治産者ガ前項ニ掲ゲザル行爲ヲ爲スニモ亦其保佐人ノ同意アルコトヲ要スル旨ヲ宣告スルコトヲ得
前二項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十三條 第七條及ビ第十條ノ規定ハ、準禁治産ニ之ヲ準用ス

第十七條 左ノ場合ニ於テハ、妻ハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

一 夫ノ生死分明ナラザルトキ

禁治產者ト準
禁治產者

民法ト民法ト
ノ區別

損害賠償ニ關
スル法規

- 二 夫ガ妻ヲ遺棄シタルトキ
- 三 夫ガ禁治產者又ハ準禁治產者ナルトキ
- 四 夫ガ瘋癲ノ爲メ、病院又ハ私宅ニ監置セラレ、トキ
- 五 夫ガ禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ、其刑ノ執行中ニ在ルトキ
- 六 夫婦ノ利益相反スルトキ

即チ民法上ハ禁治產者及ビ準禁治產者ハ前者ハ後見人後者ハ保佐人ノ同意ヲ得ザレバ何事ヲモ爲シ得ズ若シ爲ストモ之ヲ取消シ得ベク夫々刑法上ハ心神喪失者及ビ心神耗弱者ニ相當スルモノハト解シテ可ナリ唯是ハ其ノ常況ニアルモノト規定スルニ反シ彼ハ犯行當時ノミ然ルヲ必要トスル時差ノ長短有ルノミ而シテ民法上ニハ二十歳ヲ以テ成年トスルニ反シ刑法上ニハ十四歳ニ滿タザルモノヲ心神喪失者ト同様ニ取扱フガ故ニ兩者ノ間常ニ六歳ハ差違アルコトヲ知レ其ノ他尙ホ本項ニ參照スベキ法規一、二ヲ記ス。

(一) 損害賠償ニ關スル法規

參照 ◎民法 第三編 第五章 不法行爲
第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ハ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ

生ジタル損害ヲ賠償スル責ニ任ズ

第七百十條 他人ノ身體自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタル場合トヲ問ハズ前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責ニ任ズル者ハ財産以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十一條 他人ノ生命ヲ害シタル者ハ被害者ノ父母配偶者及ビ子ニ對シテハ其財産權ヲ害セラレザリシ場合ニ於テモ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十二條 未成年者ガ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行爲ノ責任ヲ辨識スルニ足ルベキ知能ヲ具ヘザリシトキハ其行爲ニ付キ賠償ノ責ニ任ゼズ

第七百十三條 心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責ニ任ゼズ、但故意又ハ過失ニ因リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラズ

第七百十四條 前二條ノ規定ニ依リ無能力者ニ責任ナキ場合ニ於テ之ヲ監督スベキ法定ノ義務アル者ハ其無能力者ガ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ズ、但監督義務者ガ其義務ヲ怠ラザリシトキハ此限ニ在ラズ

監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ズ

(二) 相續人ノ廢除ニ關スル法規

民法上ノ問題

相續人ノ廢除
ニ關スル法規

參照 ◎民法 第五編 第一章 第二節 家督相續人

第九百七十五條

法定ノ推定家督相續人ニ付キ、左ノ事由アルトキハ被相續人ハ其推定家督相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

- 一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ、又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルコト
- 二 疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ、家政ヲ執ルニ堪ヘザルベキコト
- 三 家名ニ汚辱ヲ及ボスベキ罪ニ因リテ、刑ニ處セラレタルコト
- 四 浪費者トシテ、準禁治產ハ宣告ヲ受ケ、改悛ハ望ナキコト

此他正當ノ事由アルトキハ、被相續人ハ親族會ノ同意ヲ得テ其廢除ヲ請求スルコトヲ得

訴訟能力

尙ホ禁治產及ビ準禁治產ニ關シテハ人事訴訟手續法第三章中ニ規定アルモ之ヲ省略シ、茲ニ併セテ訴訟能力並ニ證言能力ニ關スル法規ヲ附記ス。

(三) 訴訟能力ニ關スル法規

參照 ◎民事訴訟法 第一編 第二章 第一節 訴訟能力

第四十三條

原告若クハ被告ガ自ラ訴訟ヲ爲シ、又ハ代理人ヲシテ之ヲ爲サシムル能力ト、法律上代理人ニ依レル訴訟無能力者ノ代トシテ、法律上代理人ガ訴訟ヲ爲シ、又ハ一ノ訴訟行爲ヲ爲スニ付テノ特別授權ノ必要トシテ、民法ノ

規定ニ從フ

第四十四條 外國人ハ自國ノ法律ニ從ヒ訴訟能力ヲ有セザルモ、本邦ノ法律ニ從ヒ訴訟能力ヲ有スルモノナルトキハ、之ヲ有スルモノト看做ス

第四十五條

裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハズ、職權ヲ以テ訴訟能力、法律上代理人タル資格及ビ訴訟ヲ爲スニ必要ナル授權ニ欠缺ナキヤ否ヤヲ調査ス可シ

裁判所ハ遲滯ノ爲メ原告若クハ被告ニ危害アリ、且其欠缺ノ補正ヲ爲シ得ルモノト認ムルトキハ、原告若クハ被告又ハ其法律上代理人ニ其欠缺ノ補正ヲ爲ス條件ヲ以テ、一時訴訟ヲ爲スヲ許スコトヲ得、此場合ニ於テ裁判所ハ欠缺ノ補正ノ爲メ相當ノ期間ヲ定メ、其期間ノ滿了前ニ判決ヲ爲スコトヲ得ズ、但其欠缺ノ補正ハ、判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結マデ之ヲ追究スルコトヲ得

第四十六條

訴訟無能力者、又ハ相續人ノ未定ノ遺產、又ハ不分明ナル相續人ニ對シ、訴ヲ起ス可キ場合ニ於テ、法律上代理人アラザルトキハ、其事件ノ繫屬ス可キ裁判所ノ裁判長ハ、申立ニ因リテ遲滯ノ爲メ危害ノ恐アル場合ニ限り、特別代理人ヲ任ズ可シ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得、此裁判ハ口頭辯論ヲ經ズシ

民法上ノ問題

テ之ヲ爲シ其裁判ハ申請人ニ之ヲ送達シ又申請ヲ認許シタルトキハ其任ビ
ラレタル特別代理人ニモ亦之ヲ送達ス可シ

申請ヲ却下スル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

裁判長ヨリ任ゼレラタル特別代理人ハ法律上代理人又ハ相續人ノ出頭スル
マデ訴訟行爲ニ付キ法律上代理人ノ權利及ビ義務ヲ有ス

證言能力

(四) 證言能力ニ關スル法規

本能力ハ十六歳ヲ境界トナスコト刑事上ハモハニ同ジ(第二百一頁參照)

參照 ◎民事訴訟法 第二編 第一章 第六節 人證

第三百十條 左ノ者ハ宣誓ヲ爲サシメズシテ參考ノ爲メ之ヲ訊問スルコトヲ
得

第一 訊問ノ時未ダ滿十六歳ニ達セザル者

第二 宣誓ハ何物タルヤヲ了解スルニ必要ナル精神上ハ發達ハ缺クル者

第三 刑事上ノ判決ニ因リ公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者

第四 第二百九十七條及ビ第二百九十八條第三號並ニ第四號ノ規定ニ依リ、
證言ヲ拒絶スル權利アリテ之ヲ行使セザル者但第二百九十八條第三號並
ニ第四號ノ場合ニ於テハ拒絶ノ權利ニ關スル事實ニ付キ證言ヲ爲ス可キ

コトヲ申立テラレタルトキニ限ル(註。第二百九十七、八條ハ何レ
モ債權ニ關スル事項ナリ)

第五 訴訟ハ成績ニ直接ハ利害關係ヲ有スル者

(乙) 遺言能力 (Testierungsfähigkeit)

遺言能力ハ又滿十五年ニ達シタル者ハ既ニ之ヲ享有ス而シテ是レ亦禁治
産者ガ本心ニ復シタルトキニ於テ之ヲナスニハ醫師二人以上ノ立會ヲ要ス
ル等醫師ニ關係スルコト些カラズ。

參照 ◎民法 第五編 第六章 遺言

第一節 總 則

第一千六十一條 滿十五年ニ達シタル者ハ遺言ヲ爲スコトヲ得

第一千六十三條 遺言者ハ遺言ヲ爲ス時ニ於テ其能力ヲ有スルコトヲ要ス

第二節 遺言ノ方式

第一款 普通方式

第一千七十三條 禁治産者ガ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲スニハ醫師二人

以上ノ立會アルコトヲ要ス

遺言ニ立會ヒタル醫師ハ遺言者ガ遺言ヲ爲ス時ニ於テ心神喪失ノ狀況ニ在

遺言能力

關係法規

ラザリシ旨ヲ、遺言書ニ附記シテ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス、但祕密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ、其封紙ニ右ノ記載及ビ署名捺印ヲ爲スコトヲ要ス

第一千七十四條

◎左ニ掲ゲタル者ハ、遺言ノ證人又ハ立會人タルコトヲ得ズ

- 一 未成年者
- 二 禁治產者及ビ準禁治產者
- 三 剝奪公權者及ビ停止公權者
- 四 遺言者ノ配偶者
- 五 推定相續人受遺者及ビ其配偶者並ニ直系血族
- 六 公證人ト家ヲ同ジクスル者及ビ公證人ノ直系血族並ニ筆生、雇人

等

精神病學上ノ病名或ハ其ノ症狀等ハ其ノ書物ニ就テ學ブベク、茲ニ贅言スベキ性質ハモハニアラズ、(前掲責任能力ノ項參照)

第六章 性的問題 (Sexualfrage)

本章ニ於テハ、男女性ノ區別、並ニ之ニ由來シテ起ル法醫學的ノ諸問題ヲ概

精神病學上ノ病症

欠

欠

ハニ分チテ論ゼザルベカラズ。是レ交接可能ニシテ、シカモ妊娠不能ノ場合、些カラザレバナリ。

(甲) 交接能力及同衾能力 (Begattungs- fähigkeit und Beischlafsfähigkeit)

交接能力及
同衾能力

交接不能ナルモノハ、或ル特別ノ場合ヲ除クノ他、スベテ生殖不能ナリ。而シテ交接能力 (Begattungsfähigkeit) トハ男性ノ側ヨリ云フ稱呼ニシテ、女性ノ側ヨリハ之ヲ同衾能力 (Beischlafsfähigkeit) ト稱ス。

交接不能ノ原
因

交接不能 (Begattungsunfähig oder Impotentia coeundi) ニハ種々ノ原因アリ。即チ左ノ如シ。

局處的障
碍

- (一) 局處的畸形 (Locale Bildungsanomalie)
- (二) 全身の障碍 (Allgemeine Störung)
- (三) 神經的關係 (Innervationsverhältnis)
- (一) 局處的畸形ニシテ交接不能ノ原因トナルモノニハ、男側ニアリテハ包皮狭窄 (Phimose)、包皮繫帶 (Frenulum præputii) ノ甚シク短縮セルモノ、或ハ後天性ナ

生殖能力

ル病的陰莖缺損、又ハ復位シ得ザル高度ノ鼠蹊脫腸(第五十三圖)或ハ象皮病(Elephantiasis)ニテ陰囊内ニ陰莖ノ埋没セルモノ等アリ、又女側ニ於テハ、先天性ノ腔全閉鎖(Atrisia vaginae)或ハ其ノ狹窄、又ハ後天性ニ象皮病或ハ陰唇脫腸(Labiathermia)ノ爲ニ陰莖

第五十三圖 鼠蹊脫腸



ノ收容不能ナルモノアリ、又、タトヒ之ヲ收受スルモ腔攣縮症(Vaginitis)ノ如キハ交接ヲ遂行スルコト能ハズ、但シ何レモ程度ハ問題ナルガ故ニ、一概ニ之ヲ論斷スルコト能ハズ。

全身の障礙

(二) 全身の障礙トハ、例之、急性熱性病、全身ノ水腫(Allgemeine Hydrops)等ノ重症ニシテ、交接不能ノ原因ヲナスモノヲ云フ、但シ重症ナル全身病ニシテ、此ノ部類ノ例外トスベキモノハ肺結核ナリ、即チ發熱止マズ、喀血ヲナシツ、尚ホ交

神經的關係

接不能ナラザル例證豐富ナリ。

先天的色情缺如

(三) 神經的關係トハ、例之、酒精、或ハ「モルヒネ」等ノ慢性中毒、或ハ糖尿病、其ノ他腎臟ノ疾患ノ如キ場合ニシテ、特ニ男性ニ於テ相關スル所甚ダ大ナリ、即チ腰髓中ニ存スル勃起中樞(Erectionscentrum)或ハ之ヨリ陰莖ニ至ル求心性、或ハ遠心性ノ神經通路、乃至腦髓等ノ障礙ニ起因スル交接不能ヲ云フ、而シテ是レ等ノ諸障礙ニハ、或ハ先天的ナルアリ、或ハ後天的ナルモノアリ、即チ先天的ニ色情缺如シ、或ハ鈍麻セルモノ、如キハ前者ニ屬シ、概シテ、男性ニ稀ニシテ、女性ニ多シト雖、其ノ妊娠能力ニ及ボス關係ニ至リテハ、女性ニ於テハ、男性ニ於ケルガ如ク重大ナラズ、是レ蓋シ性慾ヲ缺クト雖、尚ホ能ク同衾ヲ遂行シ得レバナリ、而シテ腦或ハ脊髓ノ疾患、乃至精神病ノ爲ニ交接不能ニ陥リ、或ハ房事過度ノ爲ニ茲ニ至ルモノ、如キハ後者ニ屬ス、尚ホ老齡ニ達スレバ多少勃起中樞ノ障礙ヲ伴フヲ通常トスルモ、其ノ年齡ハ個人ニヨリテ大差アリ。

老若ト色情

附記ス、陰莖插入(Immissio penis)ハ生殖ノ必要條件ニアラズ、人工的ニ子宮内

ニ精液ヲ注入スルモ、尚ホ能ク妊娠スルコトヲ得、又交接不能ハ原因ハ一般ニ女性ニ於テハ甚ダ簡單ナリト雖、男性ニ於テハ甚ダ複雑ニシテ、其ノ決定容易

生殖能力

ナラザル場合多シ

(乙) 妊娠能力及ビ受胎能力 (Befruchtungsfähigkeit und Conceptionsfähigkeit)

精蟲ト卵トヲ合一セシムル能力ハ、男性ノ側ヨリハ、之ヲ妊娠能力 (Befruchtungsfähigkeit) ト云ヒ、女性ノ側ヨリハ、之ヲ受胎能力 (Conceptionsfähigkeit) ト云フ。從テ其ノ能力ヲ缺如スルコトヲ、男性ニアリテハ、妊娠不能 (Impotentia generandi) ト稱シ、女性ニアリテハ、受胎不能 (Impotentia concipienti) ト稱ス。故ニソレ等ノ諸障礙ハ、之ヲ男側及ビ女側ノ兩場合ニ分チテ別々ニ説明スルヲ適當ナリト信ズ。

(一) 妊娠不能 (Impotentia generandi)

男性ノ側ニ於ケル障礙ハ、多クハ睾丸ノ分泌機能障礙或ハ輸精道 (Semenweg) ノ障礙ノ何レカニ因テ生ズ。但シ兩側ノ睾丸中、一側ノミノ障礙ハ、妊娠不能ヲ來スコト無シ。凡ソ健全ナル男子ト雖、思春期以前ハ、生理的ニ妊娠不能ナリ (Sexuelle Neutra-

妊娠能力及ビ受胎能力

妊娠不能

睾丸潛伏

去勢

睾丸萎縮

受胎不能

lität) 但シ先天的睾丸缺損ハ、甚ダ稀ナリ。睾丸潛伏 (Cryptorchismus) ハ、タトヒ、兩側ニ存スルトモ、妊娠不能ノ原因ヲナサザルモ、カ、ル場合ニハ、通常、睾丸ノ發育不充分ナルガ爲ニ不能トナルコト多シト云フ。

成年者ニアリテモ、去勢 (Kastration) セルモノ、妊娠不能ナルハ勿論ナリト雖、去勢以前ニ、既ニ精囊 (Seminalblase) 中ニ蓄積セラレタル精蟲アルトキハ、妊娠不能ニアラズ。又尿道下裂 (Hypospadiе) ノ甚シキモノハ、射精ストモ、精液悉ク腔外ニ漏出シテ妊娠不能ナリ。其ノ他、睾丸輸精管、或ハ外精系神經ニ挫傷ヲ受ケルコト、或ハ中樞神經ノ疾患等ハ、屢、健全ナル睾丸ヲ萎縮ニ陥ラシムル原因タリ。就中睾丸ハ、最モ些細ナル加壓ニヨリテ、容易ニ萎縮スル性質ヲ有ス。例之、其ノ附近ニ生ジタル腫瘍ニ壓迫セラレ、場合ノ如キ是レナリ。尙ホ慢性酒精中毒ハ、睾丸ヲシテ脂肪變性ニ陥ラシメ、痲疾ハ屢、睾丸、或ハ副睾丸ノ機能障礙ヲ誘發ス。

(丙) 受胎不能 (Impotentia concipienti)

女性ノ側ニ於ケル障礙ハ、卵巢ノ分泌機能障礙或ハ輸卵管竝ニ子宮等、受胎生殖能力

月經

ニ關係アル諸臟器ノ障礙ニ因リ、而シテ女性ニ於テハ、特ニ、受胎能力ノ徵標ト認ムベキ月經ノアル有リ (Menses oder Menstruation)。

月經初潮ノ時期ハ、人種 (Rasse) ニヨリ、又、居住地ノ氣候ニヨリ、或ハ其ノ生活狀態ノ如何ニヨリテ、多少ノ差違アルヲ免レズト雖、平均十五歳乃至十七歳ニ於テスルモノ、如シ、(但シ、稀ニ甚ダ早期ニシテ、早期月經 (Menstratio Praecox) ト稱セラル、モノアリ) ソレヨリ月經ハ、約三十年間持續シテ月經閉止期 (Klimacterium) ニ至リテ止ム。而シテ一般ニハ、月經初潮以前及ビ其ノ閉止以後ハ、受胎不能ト看做シテ、大過無キモ、常ニ必ズ然ルニハアラズ、尙ホ月經ト鑑別スベキモノニ、種々ナル病的ノ出血アリ。

(丙) 孕胎能力 (Gestationsfähigkeit)

孕胎能力

最後ニ、女性ニハ、ミ關係アル獨特ナル能力アリ、即チ孕胎能力 (Gestationsfähigkeit) 是レナリ。

精蟲ト卵ト合一シテ、受胎ヲ遂ゲ得ルトモ、之ヲ一定期間、子宮内ニ滞留セシメ、以テ其ハ成育ヲ全フセシメ得ザレバ、常ニ流産シテ、胎兒分娩後ハ、成長至難

或ハ不能ニ屬ス、例之、徵毒患者ガ屢、妊娠七八ヶ月ニシテ、娩出スルガ如シ、此ノ如キヲ孕胎不能 (Impotentia Gestandi) ト稱ス、而シテ其ノ理由ハ、今日、未ダ詳ナラズ。

第三項 不法交接 (Gesetzwidriger Beischlaf)

關係法規

參照

◎ 刑法 第二十二章 猥褻、姦淫及ビ重婚ノ罪

第一百七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ、暴行又ハ脅迫ヲ以テ、猥褻ハ行爲ヲ爲シタル者ハ、六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス、十三歳ニ滿タザル男女ニ對シ、猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同ジ

第一百七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ、十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ、強姦ノ罪ト爲シ、二年以上ノ有期懲役ニ處ス、十三歳ニ滿タザル婦女ヲ姦淫シタル者亦同ジ

第一百七十八條 人ハ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘ジ、又ハ之ヲシテ心神喪失セシメ、若クハ抗拒不能ナラシメテ、猥褻ノ行爲ヲ爲シ、又ハ姦淫シタル者ハ、前二條ノ例ニ同ジ

第一百七十九條 前三條ハ、未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百八十條 前四條ノ罪ハ、告訴ヲ待テ、之ヲ論ズ

不法交接

第八十一條

第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ、因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

不法交接

不法交接トハ法規ニ違背セル交接行爲ニシテ、重婚ノ如キハ其ノ例ナリ。而シテ就中主要ナルモノヲ強姦トナス。

(甲) 強姦 (Notzucht)

強姦ノ罪

法規ニ違反スル交接中刑法ニ強姦ト稱スルモノハ、男子ガ女子ノ同意ヲ得ズ、或ハ女子ノ意識溷濁シ、或ハ抵抗スルコト能ハザルヲ利用シテ、(第七十八條)交接ヲ遂行スルヲ云フ。而シテ強姦ノ罪ハ、(第八十條)ナリト雖事、女性ノ尊嚴ニ關スルガ故ニ、量刑ハ輕カラズ。但シ女子ガ自己ノ利益ヲ計ランガ爲、或ハ他人ノ尊嚴ヲ傷ケン等ノ忌ムベキ原因ニヨリテ、詐リテ強姦ハ告訴ヲナス場合モ亦尠カラザルコトヲ記憶スベシ。而シテ精神異常者竝ニ十三歳未満ノ女子ニ對スル姦淫ハ、(タトヒ其ノ同意ヲ經トモ、之ヲ強姦ノ罪ヲ以テ律スルコト)第七十七條ニ規定スルガ如シ。是レ蓋シ、幼者ハ前章、精神異常論中ニ云ヘルガ如ク心神喪失者ニ準ズベキモノナレバナリ。

幼者ニ對スル姦淫

欠

欠

十秒乃至一分間ノ後、 1% ノ鹽酸ニテ洗滌シ、之ヲ空中ニテ乾燥セシメ以テ永久標本トナスコトヲ得、但シ既ニ古キ斑痕ニアリテハ、豫メ二十乃至 30% ノ「アンモニア」水中ニ、一時間乃至一晝夜浸漬シ置キ、之ヲ蒸溜水ニテ洗滌セルモノニ就テスルコトヲ要ス。

セ
エ
ス
テ
ン
氏
法

(一) セキステン (Joesten) 氏法、本法ハ左ノ如キ四種ノ試薬ヲ要ス。

第一液 $\parallel\parallel$ 1% 「レゾルチン」水溶液。

第二液 (A) 「ハマトキシリン」 $1:100$ 瓦ヲ無水酒精 $1:100$ ニ溶解セルモノ。

同 上 (B) $1:5\%$ 「ピクリン」酸水溶液 $1:200$ 立方仙迷ト「クロール」鐵水溶液五 $0:0$ 立方仙迷トノ混合液。

第三液 $\parallel\parallel$ 沃度加里ノ水溶液 (但シ八對百ノ濃度ノモノ)。

第四液 $\parallel\parallel$ 砒酸ノ飽和水溶液 $1:100$ 立方仙迷、ピクリン「酸」ノ飽和水溶液 $1:100$ 立方仙迷、 1% 「タンニン」酸ノ酒精 (九十六%) 溶液 $1:100$ 立方仙迷ヲ混和セルモノ。

操作ハ可檢斑ノ小片ヲ六乃至二十四時間第一液ニ浸漬シタル後、之ヲ第二液 A 及 B ノ等量混合液七立方仙迷中ニ投ジ、更ニ第三液十滴ヲ加ヘタルモ

不法交接

ノヲ試験管ニ採リテ水浴上ニテ三十分間攝氏九十度ニ加温シテ染色ス之ヲ井水ニテ洗滌シタル後更ニ第四液中ニ三四分間投入シ置キ再ビ井水ヲ以テ洗滌シテ乾燥後永久標本トナシ或ハグリセリンヲ加ヘテ鏡檢スレバ頭部ハ著明ナル黒色ヲ呈シ尾部ハ硝子様ニ透明ナリト云ヒ且ツ最も確實ナル永久標本トナスヲ得ベク法醫學的ニハ前記ノベツチ氏法以上ニ重要ナルモ操作甚ダ複雑ナルヲ其ハ缺點トス

ウングル氏法

(三) ウングル (Unger) ハ數滴ノ鹽酸ヲ加ヘタル「メチルグリユーン」液 (Methylgrün 0.1-0.3% 蒸溜水一〇〇〇立方仙迷)ヲ以テ尾部及ビ外被ヲ除ケル頭部ハミハ單ニ綠色ニ染メル標本ヲ得ルカ或ハ「ヘマトキシリン」及ビ「エオジン」ヲ以テ複染色スベシト稱ス本法ハ操作ノ簡單ナルヲ其ノ特長トシ多ク使用セラル

(ろ) 手段 (Mittel)

強姦ノ手段

精神健全ナル女子ヲ姦淫センガ爲ニハ通常種々ナル手段ヲ講ゼザルベカラズ脅迫誘惑魔睡或ハ暴行等ノ如キ即チ是レナリ

(一) 脅迫 (Drohung) 最も普通ニ行ハル、方法ハ脅迫即チ精神的ニ加ヘラハハ

暴力 (Psychische Gewalt) ニシテ(第一百七十六及ビ第一百七十七條)其ノ多キハ被害者ニ幼年ノモノ多キニ因ル

(二) 暴行 (Gewalt) 成年女子ニシテ反對ノ意志ヲ有スルモノニアリテハ相當ノ抵抗ヲナスガ故ニ暴行ノ用ヒラルベキハ説明ヲ俟タズ

(三) 誘惑物 (Lockspise) 幼者ニ其ノ嗜好物ヲ附與シテ之ヲ誘フガ如キ或ハ成年者ニ催淫劑 (Aphrodisiaca) ヲ使用シテ之ヲ誘惑スルガ如キヲ云フ

(四) 心神喪失 (Bewusstlosigkeit) 高度ノ酩酊 (Trunkenheit) 魔睡劑ノ使用、催眠術 (Hypnose) ノ悪用等ハ皆之レニ屬ス

(五) 抗拒不能 (Unmöglichkeit Widerstand zu leisten) 手ヲ縛スル等種々有ルベシ以上ノ如キ手段皆無ニシテ被害者ニ抵抗ノ意志確存スル限り強姦ノ遂行ハ不能ナルヲ原則トス

(は) 結果 (Wichtige Nachteile infolge
gesetzwidrigen Beischlafs)

強姦ノ結果

強姦ノ結果トシテ幼者ニアリテハ其ノ年齢從テ生殖器ノ發育程度ニ應ジ不法交接

テ、或ハ外陰部ノ腫脹、發赤、疼痛アリ、或ハ會陰破裂アルコト、竝ニ成長シタル處
女ニ於テハ破瓜アリテ僅微ナル出血ヲ伴フコト既ニ云ヘリ、加之、或ハ花柳病
ニ感染シ、或ハ妊娠スルコトアリテ、花柳病ニ感染シタルコトガ、其ノ病源體檢
出ニヨリテ證明セラルベキハ云フ迄モ無シ。

以上ハ精神健全者ニヨリテナサル、場合ノ結果ナルガ、或ル種ハ精神異常
者ニヨリテ遂行セラルル、場合ニハ、其ノ結果一層慘酷ナルモノアリ、即チ或ハ
幼者ノ腔ヲ指又ハ兇器ヲ以テ裂キテ擴大スルモノアリ、或ハ被害者ヲシテ死
ニ至ラシメザレバ止マザルモノアリ、淫樂的兇殺(Lustmord)ナルモノ即チ是ナ
リ、但シ強姦致死ハ必シモ精神異常者ノミニ限ラズ、健全者ト雖被害者ノ抵抗
ヲ除カント欲スルハ餘リ、窒息或ハ腦震盪等ニ陥ラシムルモノアリ、又下肢ニ
甚シキ骨折ヲ生ゼシメタル例モアリ、罪跡隠蔽ハ爲ニモ亦屢、殺人敢行セラル。
附記ス、強姦ノ罪ハ申告罪ナルガ故ニ、單ニ姦淫ノミノ存在スル場合ニハ、被
害者ノ告訴ヲ必要トスルモ、既ニ之ニ傷害或ハ死亡ノ事實ノ共存スルトキハ、
直ニ檢事ノ起訴トナル、而シテ種々ナル花柳病ハ感染モ、亦法律上ニハ傷害ハ
數ニ入ルコトヲ。

淫樂的兇殺

傷害致死

(乙) 其ノ他ノ不法交接 (Gesetzwidriger Beischlaf anderer Art)

其ノ他ノ不法交接ニ近親相姦(Incest oder Blutschande)アリ、本邦ニ於テハ單ニ
其ノ婚姻ヲ禁ズルノミナルモ、泰西ニ於テハ更ニ之ニ加刑スルモノアリ、例之、
ドイツ刑法第七十四條ノ如シ。
重婚(Doppelhe)ニ關シテハ贅言セズ。

近親相姦

重婚

第四項 反自然的淫行及ビ猥褻行爲

(Widernatürliche Unzucht und Unsittlichkeit)

關係法規

參照 ◎刑法 第二十二章 猥褻、姦淫及ビ重婚ノ罪
第七十四條 公然猥褻ハ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス
第七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ハ物ヲ頒布若クハ販賣シ、又ハ公然之ヲ陳
列シタル者ハ、五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持
シタル者亦同ジ

反自然的淫行及ビ猥褻行爲

反自然的淫行即チ例之、鶏姦、獸姦等ニ關シテハ、ドイツ及ビオーストリアノ如キハ、夫々特殊ノ刑ヲ定ムト雖、本邦ニ於テハ此ノコト無ク、唯一様ニ此レ等ヲ猥褻行為ヲ以テ論ズ、(第七十四條及ビ前出、第七十六條)依ツテ種々ナル反自然的淫行ニ關シテ、一々説明スルノ煩ヲ避ケ、茲ニハ、唯、ソレ等ノ名稱ノミヲ列記スルニ止メ、參考トシテ、前記、兩國ノ刑法ノ條項ノ一例ヲ括弧内ニ附記スレバ則チ、

性慾的作虐(Sadismus)——(獨刑第二二二條)

性慾的被害(Masochismus)——(獨刑第四條)

性慾的索物(Fetichismus)——(獨刑第二四二及ビ第二四九條)

屍好(Nekrophilie)・屍姦(Leichenschändung)——(獨刑第三〇六條)

小兒嗜好(Paedophilie)・鶏姦(Paederastie)——(獨刑第一七五條)

獸姦(Sodomie)——(獨刑第一七五條)

陰部露出症(Exhibitionismus)——(獨刑第一八三條)

婦女相姦(Tribadie)及ビ手淫(Onanie)

等ニシテ、其ノ多數ハ色情倒錯症(Sexuelle Perversion)ニ基因スルモノナリ。

按ズルニ本邦刑法ニ所謂猥褻トハ淫慾ヲ興奮シ、又ハ之ヲ満足セシムルニ出デタル、交接以外ノ行為ニシテ、他人ニ著シク背倫ハ觀念ヲ抱カシムルモノノ義ナリ、是レ即チ前掲セル種々ノ反自然的淫行ガ總テ一律ニ猥褻ヲ以テ論ゼラル、所以前項不法交接ノ冒頭所載ノ刑法第七十六條及ビ第七十八條乃至第八十條ヲ參照スベシニシテ、ソレ等ノ中獸姦、鶏姦、或ハ屍姦等ノ如ク痕跡ヲ殘スモノハ勿論、タトヒ、陰部露出症ノ如ク痕跡ヲ殘サハルモノト雖、既ニ云ヘルガ如ク、是等ノ多クハ通常一定ノ精神異常アルモノ、行為ナルガ故ニ、法醫ハ屢、其ノ精神状態ヲ鑑定スベキ命令ヲ受クルコトアリ、然レドモ亦、精神健全者ニシテ、或ハ妊娠又ハ花柳病ヲ恐ル、ガ爲、或ハ僧侶ノ如キ一定ノ職業ニ従事スルガ爲、或ハ老年又ハ畸形等ニシテ交接ハ不能ナルモ、性慾ノミハ旺盛ナルガ爲、等ノ種々ナル理由アリテ、交接ヲナサズシテカクノ如キ異常ノ淫行ヲ遂行スルモノモ亦尠カラズ、而シテ其ノ申告罪ナルコト(第八十條)等ハスベテ強姦ノ項ニ云ヘルガ如シ。

第七章 妊娠及び分娩 (Schwangerschaft und Geburt)

關係法規

參照 ◎民法 第一編 第一章 第一節 私權ノ享有

第一條 私權ノ享有ハ出生ニ始マル

◎同上 第四編 第二章 戸主及び家族

第一節 總 則

第七百三十三條 子ハ父ノ家ニ入ル

父ハ知レザル子ハ母ノ家ニ入ル

父母共ニ知レザル子ハ一家ヲ創立ス

第七百三十四條

父ガ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リタルトキハ前條第一項ノ規定ハ懐胎ハ始ニ遡リテ之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ父母ガ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セズ但母ガ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラズ

◎同上 第三章 第一節 第一款 婚姻ノ要件

第七百六十七條 女ハ前婚ハ解消又ハ取消ハ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタル後ニ非ザレバ再婚ヲ爲スコトヲ得ズ

女ガ前婚ノ解消又ハ取消ノ前ヨリ懐胎シタル場合ニ於テハ其分娩ハ日ヨリ前項ノ規定ヲ適用セズ

◎同上 第二款 婚姻ノ無効及び取消

第七百八十二條 第七百六十七條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ前婚ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シ又ハ女ガ再婚後懐胎シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ズ

◎同上 第四編 第四章 第一節 第一款 嫡出子

第八百二十條 妻ガ婚姻中ニ懐胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス

婚姻成立ハ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ハ解消若クハ取消ハ日ヨリ三百日内ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定ス

第八百二十一條 第七百六十七條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女ガ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ其子ノ父ヲ定ムルコト能ハザルトキハ裁判所之ヲ定ム

第八百二十二條 第八百二十條ノ場合ニ於テ夫ハ子ハ嫡出ナルコトヲ否認スルコトヲ得

第八百二十五條 否認ノ訴ハ夫ガ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ之ヲ提

起スルコトヲ要ス

◎同上 第二款 庶子及び私生子

第八百三十一條 父ハ胎内ニ在ル子ト雖モ之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テハ母ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

父又ハ母ハ死亡シタル子ト雖モ其直系卑屬アルトキニ限り之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テ其直系卑屬ガ成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

◎同上 第五編 第一章 第二節 家督相續人

第九百六十八條 胎兒ハ家督相續ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス前項ノ規定ハ胎兒ガ死體ニテ生マレタルトキハ之ヲ適用セズ

◎刑法施行法

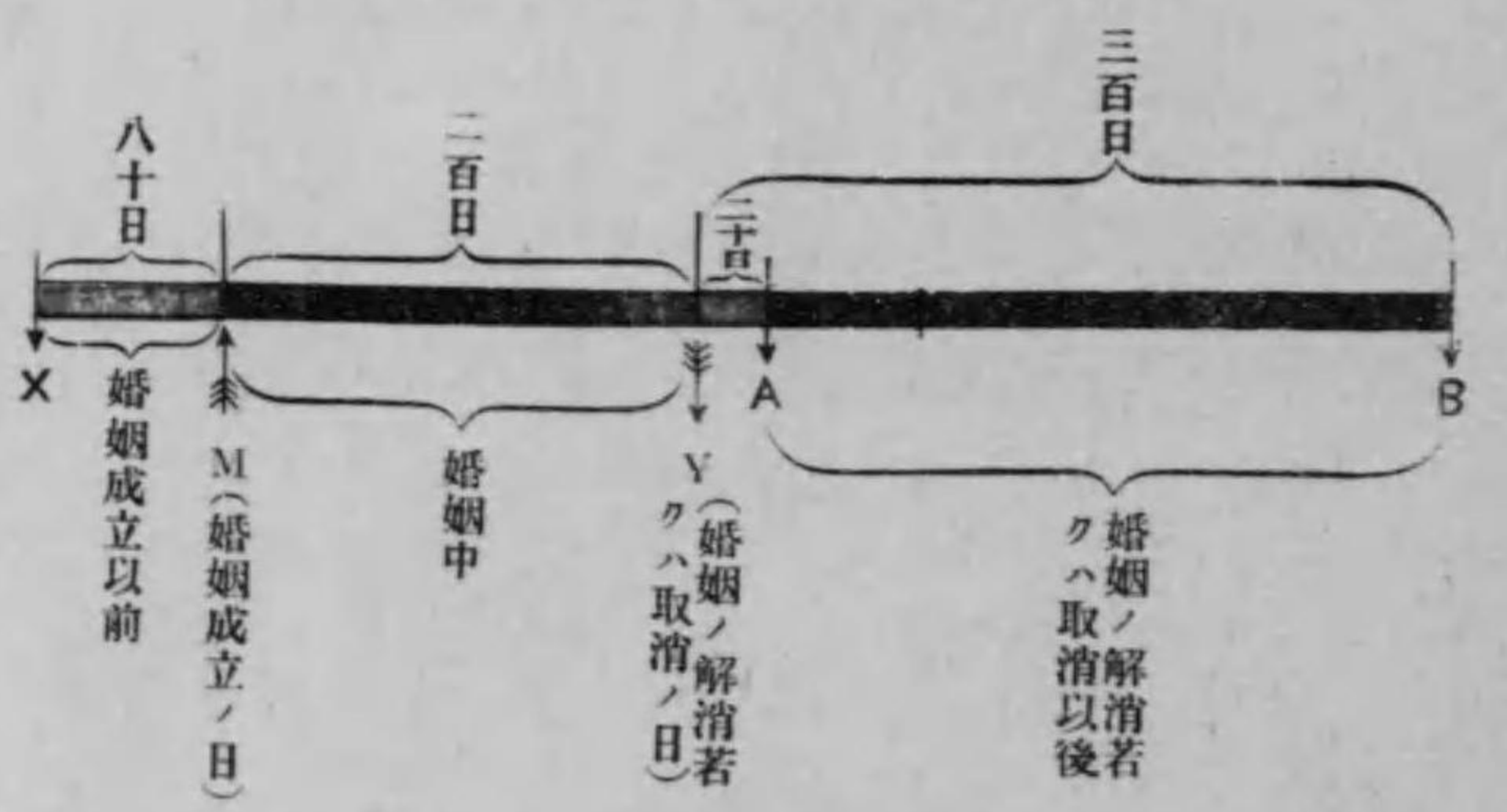
第四十八條 刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第三百十八條ノ二(省略)

第三百十八條ノ三(省略)

死刑ハ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非ザレバ執行ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十七圖 民法第八百二十五條ニ關スル疑義



第四十九條 刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

懲役、禁錮、又ハ拘留、言渡ヲ受ケタル者、左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ、其事故ノ止ムマデ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

- 一 心神喪失ノ状態ニ在ルトキ
- 二 刑ノ執行ニ因リ、生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ
- 三 受胎後、七月以上ナルトキ
- 四 分娩後、一月ヲ經過セザルトキ

上記ノ法規中、第七百六十七條ハ、再婚シテ後前同ノ夫ノ子ヲ分娩スルコトヲ防止スルモノナリ、又第八百二十條ハ、夫以外ノ者ノ子ヲ區別センガ爲ニ設ケタルモノナリ、モ、醫家ノ立場ヨリ、之ヲ觀ルトキハ、甚ダ危険ナル規定ト云ハザルベカラズ、何トナレバ妊娠ノ平均期間ハ二百八十日ナルガ故ニ、第五十七圖ニ示スガ如ク、婚姻成立ノ

日ヨリ八、十日以前(X)ナル日ニ懐胎シタル子ハ、(Y)ナル日ニ生ルベクシテ夫ノ子ト推定セラレ之ニ反シテ婚姻ノ解消後二十日ニ相當スル(A)日ニ懐胎シタル子ハ、婚姻ノ解消後三百日ナル(B)日ニ生ルベクシテ、正シク夫ノ子ト推定セラル。故ニ簡言スレバ、第五十七圖中赤線ノ部分、即チ婚姻成立ハ、日以前八十日及ビ婚姻ノ解消若クハ取消ハ、日以後二十日ハ、兩者ハ、民法第八百二十條ニ疑義ヲ挾ミ得ベキ危險區域ニシテ、第八百二十二條ニ否認ヲ許容スル所以ナリ。

第一項 妊娠論 (Schwangerschaft)

(甲) 正常妊娠 (Normale Schwangerschaft)

妊娠及び分娩ニ關スル條文多ク、或ハ嫡出子、庶子及び私生兒ノ區別、或ハ夫ノ子カ、重婚者ノ子カノ區別、或ハ刑ノ執行猶豫等適用ノ方面ハ、種々相分ルト雖、醫師ノ關知スルハ、唯、妊娠ナリヤ否ヤ、從テ、分娩、或ハ妊娠ノ時期ハ、何時ニシテ、難易アル問題ニシテ、妊娠ノ前半期ニ於テハ、恐クハ推定ノ診斷ヲ與ヘ得ベキニ止ルベシ、何トナレバ、法醫トシテ之ヲ決定スベキ場合ニハ、到底、通常ノ

醫師ノ定ムベキ範圍

妊娠ノ前半期

確實ナル妊娠ノ徵候

妊娠ノ時期ノ診斷

妊婦ノ如ク容易ニ眞狀ヲ窺知セシメザル關係(隱蔽或ハ誇張等)加ハリ、加之、或ハ刑ノ執行ヲ延期セン等ノ目的(刑法施行法第四十八條及ビ第四十九條參照)ヲ以テ妊娠ヲ假裝スルモノ(詐病)モ有リ得ベクレバナリ。故ニ此ノ際、確實ナル證左ヲ得ント欲セバ、靜ニ其ノ經過ヲ觀察スルコト最モ必要ナリトス。

妊娠ノ徵候ニ關シテハ、産科學ノ教科書ニ精シキガ故ニ、茲ニハ詳説セザルベシ。唯、普通ノ場合、妊娠立證ノ一ト看做サル、月經中止、或ハ惡疽 (Hyperemesis gravidarum)ノ如キハ、其ノ確實ナル證左トナスベカラス、何トナレバコレ等ハ想像妊娠 (Eingebildete od. psychische Schwangerschaft)ノ場合ニモ常ニ存ス。故ニ必ず主トシテ子宮自己ノ徵候、即チ其ノ肥大及ビ子宮頸 (Portio vaginalis)ノ性狀等ニ依ルベク、又乳房ノ變化等ヲモ參考スベキヲ云フニ止ム。是レ曩ニ妊娠前半期ハ推定以上ニ出デズト云ヒシ所以ナリ。而シテ最モ確實ナル證左ハ勿論子宮内ニ存在スル胎兒自身ニ關スル徵候、例之、胎動 (Kindesbewegung) 或ハ胎兒ハ、心音 (Herztöne)ヲ認知シ、或ハ兒體ノ一部ヲ觸知スルニ在リテ、胎動並ニ心音等ノ如キハ、同時ニ尙ホ胎兒ハ生存セルコトヲモ立證ス。

既ニ妊娠ト定ラバ、更ニ進ンデ妊娠ノ時期即チ妊娠第何週ナリヤ等ヲ定メ

妊娠論

ザルベカラズ。而シテ妊娠時期ノ診断ハ、法醫學的ニハ單ニ子宮底部ノ高サ、腹圍或ハ胎兒ノ身長等ノ如キ妊婦ヨリ得タル身體的所見ハ、ミニ因ルベク、産科ニ於テ許容スト雖、決シテ最終月經ノ第一日、受胎ノ原因タル交接ノ日乃至胎動自覺ノ第一日等ヨリシテ分娩豫定日(Termin)ヲ計算シテ以テ妊娠ノ時期如何ヲ推定スベカラズ。是レ言フ迄モ無クソレ等ニ關スル被檢者ノ口供ガ殆ド常ニ信ヲ置キ難キニ基ク、附記ス、妊娠期間ハ平均四十週、即チ二百八十日ナリ。妊婦ガ初産婦ナリヤ、或ハ經産婦ナリヤハ、處女膜及ビ子宮外口(Muttermund)ヲ檢スレバ直ニ明ナルベシ。即チ初産婦ニアリテハ第五十五圖ノ如ク、唯、破瓜ノ痕跡ノミナルニ反シ、經産婦ニアリテハ、分娩ノ際、基部ヨリ甚シク破碎セラレテ、後ニ癍痕トナレル處、處女膜ガ所謂處女膜痕(Caruncula hymenalis)トナレルコト(第五十八圖)ナリ。子宮外口ニ關シテハ後項、分娩論ヲ見ヨ。加之、妊婦ガ妊娠及ビ分娩ニ關スル經驗ヲ有スルカ否カハ、其ノ態度竝ニ心理狀態ニ明ニ表現セラレテ、産科的知識以外ニ鑑定者ノ好資料タルベシ。

妊娠ハ、胎兒ヲ母胎外ニ娩出スルコト即チ分娩ニヨリテ終ル。而シテ其ノ娩出時期ニ遲速無キモノヲ定期分娩(Rechtzeitige Geburt)トシ、妊娠平均期間十週ヨ

初産婦及ビ經産婦

處女膜痕

分娩ノ時期

欠

欠

schmole) 血塊 (Blutnole) 等アリテ、此レ等ハ何レモ、妊娠ノ一種ナルガ故ニ、此レ等モ亦、妊娠ノ原因ヲナスベキ關係ハ、既存セシ、確證トナスニ足ル。

葡萄狀鬼胎

葡萄狀鬼胎或ハ胞狀鬼胎ハ、高齡ノ妊婦又ハ經産婦、特ニ頻産婦ニ屢見ラレ、脈絡膜ノ異狀ニ由來ス。即チ其ノ絨毛ノ變性ニ因ル大小無數ノ囊胞アリ、莖ニヨリテ相連リテ形狀甚ダ葡萄ノ房ニ近シ、囊胞ハ白色乃至帶黃白色ニシテ、其ノ小ナルモノハ暗褐色ノ脱落膜ニ包マレ、其ノ大ナルモノハ各胞ノ間隙ニ少許ノ脱落膜組織ヲ遺シ、大サ兒頭大ニ達ス。而シテ囊胞群ノ中ニ、羊膜ニ包圍セラレタル妊娠卵ノ痕跡ヲ或ハ存シ、或ハ存セズ。

其ノ確證

葡萄狀鬼胎ト平常妊娠トノ鑑別トシテハ、子宮ノ増大甚ダ急速ニシテ、第四乃至第六週ニシテ子宮底部ガ既ニ劍狀突起ニ達スルモノアルニ拘ラズ、多クハ一程度迄増大スルトキハ不變ノ儘ニテ越月スルコト、或ハ胎兒存在ノ諸徵ノ一モ之レ無キコト等ヲ舉グルモ、其ノ確證トシテハ、出血等ノ中ヨリ小囊胞ヲ發見スルカ、或ハ子宮口ノ開大ニ際シテ囊胞ヲ觸知スルカノ他無シ。

(ろ) 子宮外妊娠 (Extrauterinschwangerschaft)

喇叭管妊娠

子宮外妊娠ノ原因

妊娠及び分娩

二五〇

子宮外妊娠トハ子宮以外ノ母体内ニ胎兒ヲ收容セルモノ、總稱ニシテ輸卵管(Tuba uterina)内ニ在ルモノハ最も多ク、其ノ約八十五%ヲ占メ、特ニ喇叭管妊娠(Tubenschwangerschaft)ト稱セラル。其ノ他卵巢中ニ在ルモノ(卵巢妊娠)Ovarialschwangerschaft) 腹腔内ニ在ルモノ(腹腔妊娠)Bauchhöhlenschwangerschaft) 等モアレド稀少ニ屬ス。而シテカ、ル子宮外妊娠ハ、通常先天的或ハ後天的ナル喇叭管ノ形態異常又ハ喇叭管ノ機能障礙即チ其ノ上皮纖毛運動不全、該部ニ於ケル分泌異常或ハ其ノ管壁ノ收縮運動ニ異常アルトキ、其ノ他濾胞裂孔ノ過小乃至卵細胞ノ過大、或ハソレ等ニ續發スル諸徴等ヨリ誘起セラル、モノ、如シ、

母側ニ於ケル影響

此レ等子宮外妊娠ノ場合胎兒ノ未ダ小ナル時期ニ於テハ異常無キモ、漸次發育スルニ及ンデハ、子宮ニ比シテ甚シク外皮薄弱ナル臟器内ニ在ルガ故ニ、些細ナル打撲又ハ中毒等ニ因リテ、容易ニ外皮破裂シテ、腹腔内ニ甚シキ出血ヲ起シ以テ母ヲシテ急死セシムルコト等アリ。但シ子宮外妊娠ニアリテハ、妊娠ノ前半期特ニ三ヶ月以内ニ發育中絶シテ流産ニ終ルモノ多ク、其ノ後半期ニ達スルモノハ稀ナリ、即チ殆ド生育スベキ兒童ヲ得ベカラズ。

兒側ニ於ケル變化

子宮外ニ妊娠セラレタル胎兒ハ必シモ流産或ハ破裂ニ次グ出血ヲ招來セズ、或ハ又死亡シテ母胎内ニ遺殘セル儘種々ナル變狀ヲ呈スルコトアリ。例之、羊水ハ勿論兒體ニ於ケル水分迄モ吸收シ去ラレテ木乃伊化スルコトアリ又全身ニ石灰ヲ沈著シテ所謂石兒(Steinkind)トナルコトアリ。

(は) 複妊 (Nachempfangniss od. Uberschwängerung)

複妊トハ、一兒ノ受胎セル後、更ニ他兒ノ受胎スル現象ヲ云ヒ、之ニ兩種アリ、即チ(A)一ハ同期性複妊(Uberschwängerung)ニシテ、(B)他ハ異期性複妊(Uberfruchtung)ナリ。左ニ其ノ説明ヲ加フ。

同時期性雙胎

(A)前者ハ、同一ノ熟卵期(Ovulationsperiode)ニ於ケル一以上ノ卵ガ、別種ハ精蟲ニヨリテ受胎スルヲ云ヒ、ガクノ如キ現象ハ、動物ニ於テ屢認メ得ラル、ノミナラズ、人類ニアリテモ亦、嘗テアフリカ在住ノ白人ノ婦女、白人及ビ黑人ト重婚シテ重複妊娠セルガ、一兒ハ白ク、他兒ハ黒カリシ實例アリ。但シ之ヲ以テ一兒ノ白キハ母ニ似タルモノナリトスル異說モアリ。

異時期性雙胎

(B)後者、即チ熟卵期ヲ異ニセル卵ニヨル重複妊娠ハ、或ハ有リト云ヒ、或ハ無

妊娠論

二五一

シト稱シテ、諸説一致セズ、即チ其ノ有リトナスモノハ曰ク、「某女二兒ヲ生ミタルニ、一兒ハ成熟シ居タルニ拘ラズ、他兒ハ約二ヶ月早期ナリシ例有リ」ト。又曰ク「通常ノ子宮ニハ之レ無キモ、重複子宮 (Uterus duplex) ニ於テハ之レ有リ」ト。然レドモ本現象ヲ否定スルモノハ曰ク、「一兒ノ既ニ受胎セル後、第二兒ノ更ニ受胎スベキ筈無シ」ト。又曰ク「重複子宮ニアリテモ、一方ガ受胎シテ膨大スルトキハ、他方ハ壓迫セラレテ妊娠シ得ベカラズ」ト。

第二項 分娩論 (Geburt)

正規分娩其ノ物ハ、法醫學的交渉ヲ有セザルモ、殺兒等ト關聯シテ屢之ニ關スル諸問題ヲ生ズ。故ニ茲ニハ正規分娩其ノ物ニ就キテハ一モ言ハズ、唯、分娩ハ存在セシ徵候、特ニ分娩後ニ於ケル時間經過ノ状態ニ就キテ述ブルニ止ム。分娩ノ存在セシ確證ハ、胎兒未熟ノ場合、特ニ妊娠第一、二ヶ月ニ於テ甚ダ之ヲ得ルニ難ク、其ノ確實ナル痕跡モ、普通ノ月經血ト識別シ得ベカラズ。是レ此ノ如キ検査ノ必要ナル際ニハ、十中ノ八、九胎兒ハ遺棄セラレテ其ノ形影ヲ止メザレバナリ。然レドモ胎兒既ニ成熟セル場合ニハ、タトヒ胎兒ヲ隱匿スルモ、

分娩存在ノ徵候

分娩後間モ無キ場合

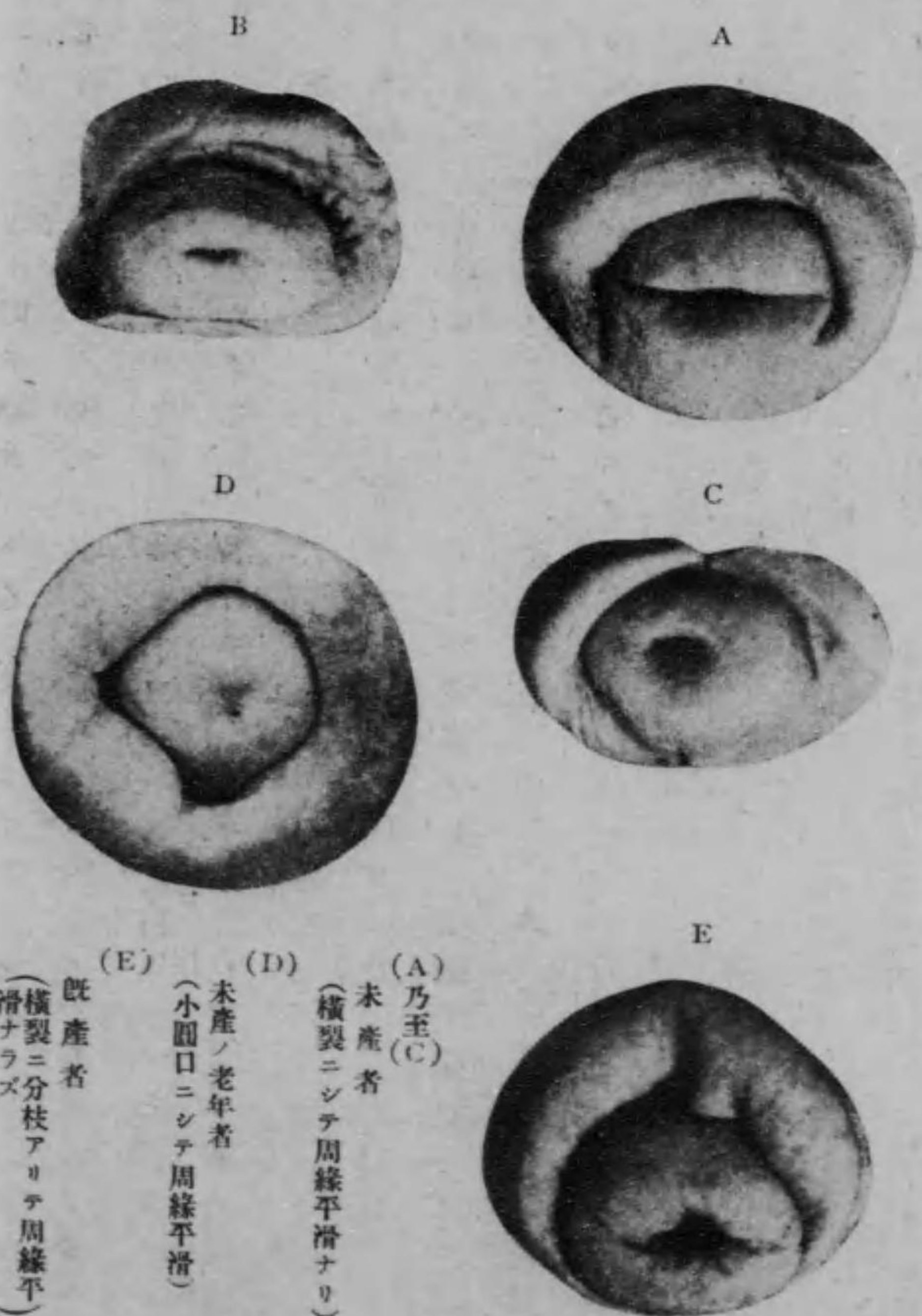
胎便ヲ附着セル一布片、尙ホ能ク分娩ノ存在セシヲ立證スルガ故ニ、其ノ證跡ヲ確ムルニ難カラズ。而シテ其ノ證明ハ、難易ハ當ニ胎兒ノ熟否ハミナラズ、又分娩後經過セル時日ハ長短ニ關シ、新シキハ認メ易ク、古キモノハ難シ。

分娩後、未ダ二、三時間ヲ出デザル場合ニハ、婦女ハ倦怠シ、貧血シ居リ、皮膚蒼白ニシテ四肢ニ靜脈擴大 (Veneklastie) アリ、腹皮ハ妊娠癩痕 (Schwangerschaftsmarke) ヲ有シテ弛緩シ、乳房ハ充盈シテ、色素ニ富メル乳頭ヨリハ、壓ニヨリテ初乳 (Colostrum) ヲ漏ス。且ツ體溫上昇アリ。加之、外陰部ヨリハ所謂惡露 (Lochiae) ヲ漏出シ、腔、口廣潤、腔粘膜平滑、腔襞積 (Ruga vaginalis) ヲ見ズ。大陰唇腫脹ス。子宮外口 (Muttermund) ニハ新シキ裂創アリテ、容易ニ一指ヲ通ジ得ベシ。而シテ分娩時、軟部産道ニ損傷ヲ伴フコトモ亦稀ナラズ。會陰或ハ陰挺 (Clitoris) 附近ノ破裂、乃至小陰唇ノ内面ニ於ケル裂創ノ如キハ其ノ例ナリ。

然レドモ上記ノ諸徵候中ニハ、或ハ速ニ恢復スルモノアリ、又或ハ永久ニ殘存スルモノアリ。例之、惡露ハ數日間ハ血液様ナルモ、約二週ニシテ肉汁様トナリ、約三週ニシテ止ム。脱落膜細胞 (Deciduaellen) ノ如キモ其ノ初期ニ於テ混在スルヲ見ルノミ。且ツ惡露ハ哺乳スルトキハ速ニ閉止シ、然ラザルトキハ比較的

長ク持續ス之ニ反シテ永ク存続スルモノハ子宮外口ノ創痕ナリ即チ外口ハ約一週乃至旬日ニシテ縮小スルモ癒痕治癒セル裂口ハ一生涯存在シテ經産

第五十九圖 子宮外口ノ形状



(A)乃至(C) 未産者 (横裂ニシテ周縁平滑ナリ)
 (D) 未産ノ老年者 (小開口ニシテ周縁平滑)
 (E) 既産者 (横裂ニ分枝アリテ周縁平滑ナラズ)

婦タルハ一證左トナル即チ第五十九圖ニ就キテ長短ノ差種々ナル横裂若年者或ハ小圓口(老年者)ニシテ何レモ周縁ノ平滑ナル未産者ト癒痕性ノ截痕アリテ横裂分枝ヲ呈シ周縁平滑ナラザル既産者トヲ比較スレバ蓋シ思ヒ半バニ過グルモノアラシ又經産婦ニハ處女膜痕ヲ生ズルコトハ既ニ前項ニ述べタルガ如シ(第五十八圖)

然レドモ一般ニ之ヲ云ヘバ「分娩後幾何日ヲ經過セシヤ」ハ質問ニハ甚ダ答ヘ易カラズ單ニ「分娩セシコトアリヤ否ヤ」ハ質問ハ早期ハ流産ニアラザル限リ多クハ之ヲ明答シ得ベシ特ニ屍體ニ就キテハ剖檢ニヨリテ比較的多少ハ資料ヲ得ラ、ルガ故ニ一層確實ニ答フルコトヲ得

第三項 犯法的墮胎 (Kriminaler Abortus)

參照 ◎刑法 第二十九章 墮胎ノ罪

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ハ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ、一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ、二年

犯法的墮胎

以下ノ懲役ニ處ス、因テ、婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ、三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條 醫師、產婆、藥劑師又ハ藥商、婦女ノ囑託ヲ受ケ、又ハ其承諾ヲ得テ、墮胎セシメタルトキハ、六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス、因テ、婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ、六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケズ、又ハ其承諾ヲ得ズシテ、墮胎セシメタル者ハ、六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
前項ハ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十六條 前條ハ罪ヲ犯シ、因テ、婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ、傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

墮胎 (Abortus) トハ、未ダ完全ナル成熟ヲ遂ゲザル胎兒ガ、偶然ニ、或ハ人爲ニヨリテ、母胎外ニ驅出セララル、ヲ云フ

(A) 偶發性ノ墮胎 (Spontaneer Abortus) ニ關シテハ、孕胎不能ノ婦女ガ此ノ素因ヲ有スルコト、既ニ前章ニ云ヘルガ如シ、(B) 人爲的墮胎 (Künstlicher Abortus) トハ、(1) 妊婦ノ病苦ヲ救濟センガ爲ニ、醫治ノ目的ヲ以テ、人爲的ニ行ハル、モノ、又ハ

(2) 單ニ妊娠ヲ中斷セシメ、之ニ依テ正常分娩ヲ避クル目的ヲ以テ、人爲的ニ行ハル、モノヲ云フ、而シテ此ノ人爲的墮胎中、後者ニ屬スルモノハ、即チ刑法上ニ所謂墮胎 (Kriminaler Abortus) ニシテ、通常單ニ Fruchtabreibungト稱セラル、此ノ項述ベント欲スルモノ、即チ是レニシテ、生物學上ヨリ、之ヲ見レバ等シク、殺人或ハ殺兒ト同一性質ノモノナレドモ、刑法上ニハ兩者ヲ分チ論ズルコト、既ニ殺兒論ノ冒頭ニ盡シタルガ如シ、以下單ニ墮胎ト記スルモノハ、スベテ「刑法上ニ所謂墮胎」ハ義ナリ、

墮胎ハ、妊婦一人ニテ、單獨ニ遂行シ得ルコト甚ダ稀ニシテ、通常妊婦、又ハ其ハ關係者ノ囑託ヲ受ケ、或ハ之ヲ幫助シ、或ハ教唆シテ墮胎セシムル者アリ、是レ即チ刑法第二百十三條乃至二百十六條ノ規定アル所以ナリ、而シテ墮胎ニ關シテ法醫ニ屢、提出セラル、問題ハ左ノ如シ

(甲) 墮胎ノ事實存在セシヤ否ヤ、少クトモ其ノ企圖ト認ムベキモノアリヤ否ヤ(所見)

(乙) 若シ墮胎ノ事實アリトセバ、其ノ墮胎ハ偶發性ノモノナリヤ、或ハ人爲的ニナサレタルモノナリヤ(原因及び手段)

(丙) 妊婦ニ對スル墮胎ノ影響如何(結果)
以下其ノ各ニ簡單ナル説明ヲ加ヘン。

(甲) 墮胎ニ關スル所見 (Befund über dem Abortus)

墮胎ノ行ハレシ確證ハ未熟ナル胎兒ハ存在ヲ以テ第一トスルモ胎兒ハ普通隱匿又ハ遺棄セラレテ得ベカラズ其ノ所在ヲ發見スルニ及ンデハ屍體既ニ腐敗シテ殘存セル遺骨ニヨリテ其ノ發育程度ヲ推定スルヲ以テ満足スベキニ至ルモノ多ク或ハ胎盤ノミヲ殘存シ或ハ衣類調度等ニ存スル汚物斑ノ胎便ナルヲ立證シテ止ムベキ場合モアリ故ニ比較的屢ニ存在スル材料ハ妊婦ハ身體的所見ナルモ之レトテモ亦缺如スル場合尠カラズ或ハ又墮胎受囑者教唆者等ノ口供其ノ他ヲ資料トス。

統計ノ示ス所ニ依レバ墮胎ハ最多ク行ハルハハ妊娠第四乃至六ヶ月ハ期間ナリ蓋シ初期未ダ妊娠ト確定セザル期間ハ之ヲナサズ又胎兒ノ發育顯著ナル末期ニ至リテ之ヲ行ヘバ容易ニ其ノ犯行ノ曝露スベキヲ恐ルガ故

墮胎證明資料

所見 統計的

母體検査

ナルベシ從ヒテ墮胎検査ノ多ク行ハル、胎兒モ亦上記ノ期間ニ屬スルモノニシテ之ニ就テハ胎兒ニ墮胎ヲ偶發スルニ足ルベキ一定ノ疾患又ハ異常アリヤ或ハ墮胎ノ原因ト認ムベキ人爲的ノ損傷アリヤ等ヲ検査スルコト肝要ナリ而シテ統計ハ又墮胎者ハ大多數ハ未婚者ナルコトヲ示ス。

母體ニ就キテ検査スベキハソガ墮胎セシヤ否ヤ及ビ若シ墮胎セリトセバ、妊娠第何ヶ月ニ於テセシヤ等ノ問題ニシテ妊娠ノ末期ニ於テセシモノハ前項正常妊娠ニ於テ述ベシ如キ所見アルガ故ニ比較的容易ナリト雖初期特ニ妊娠第二、三ヶ月ニ於テセシモノハタトヒ墮胎後數日以内ニ之ヲ檢スルモ僅ニ處女膜破瓜、竝ニ血様ノ液ガ腔口ヨリ漏出スルヲ見ルノミニシテ甚ダ其ノ確證ヲ得ルニ苦シム但シ墮胎ニヨリテ死ニ至レルモノニ就キテハ以上ノ他尙ホ剖檢ニヨリテ内景所見ヲ資料ニ供シ得ベキガ故ニ比較的便宜多シ而シテ内景所見中重要ナルモノハ勿論他ニ死因ト認ムベキ所見無クシテ子宮粘膜卵巢ノ變化特ニ其ノ黃體 (Corpus luteum) 等ニ變化アルコトナリ。

(乙) 墮胎ノ原因及ビ方法 (Ursache und Mittel)

墮胎ノ原因トハ、墮胎ガ偶發セシカ、或ハ人爲的ニナサレシカノ問題ニシテ、偶發セルモノハ、法醫トシテハ、之ヲ人爲的ノモノト鑑別スル上ニ甚ダ必要ナリ。

偶發性墮胎

偶發性ノ墮胎ニハ、經驗ニヨレバ、(一)卵ガ受精セル後、間モ無ク起ルモノ、及ビ(二)妊娠第六乃至八ヶ月ニ屢起ルモノトノ兩種アリ、(一)前者ハ卵ノ固著未ダ弱キ爲ニ生ジ、(二)後者ハ胎兒ノ生活機能漸ク敏活ナラントスル時期ニ於テスト解セラル、モ、其原因ニハ、種々アリ、即チ或ハ胎兒自己ニアリ、或ハ母ニアリ、又或ハ外來ノ刺戟ニアリ、其ノ胎兒自己ニ起因スルモノハ、畸形或ハ榮養循環等ノ障礙、或ハ微毒等ナルガ故ニ剖檢ニヨリテ容易ニ之ヲ確證シ得ベク、母ニ在ルモノモ亦、子宮疾患、子宮ノ位置異常或ハ腎臟炎ノ如キ局處的變化、乃至熱性病、或ハ血壓上昇、高度ノ出血等ノ如キ全身症狀ナルガ故ニ、是レ亦母體ヲ診察シテ確證スルヲ得ベシ、又外來ノ刺戟ニ起因スルモノトハ、例之、全身特ニ、下腹部ノ打撲、及ビ人爲的墮胎ニ際シテ常ニ慣用セララル、種々ナル方法、即チ以下ニ詳述セントスルモノニシテ、其ノ大多數モ亦之ヲ確證スルコトヲ得ベシ、唯(一)妊娠ノ初期ニ於テスルモノ、大多數ハ殆ド確證シ得ベカラズ。

墮胎ノ慣用手

人爲的墮胎ノ目的ヲ以テ慣用セララル、方法(Fruchtabtreibungsmittel)ヲ大別シテ二トス、外的方法及ビ内的方法、即チ是レナルモ、其ノ歸著スル處ハ兩者即チ、一ニシテ、子宮筋ハ收縮ヲ促シ、以テ胎兒ヲ娩出セシムルニ在リ、而シテカ、ル場合ニ於ケル裁判官質問ノ題目ハ、某々ノ方法ヲ以テ墮胎ノ目的ヲ全フシ得ルヤ否ヤナルモノ最モ多シ。

(い) 内的方法 (Innere Abtreibungsmittel od. Toxische Abtreibungsmittel)

内服藥

内的方法トハ、毒物ヲ内服シテ、胎兒ヲ驅出スルコトヲ云フ、故ニ、又毒物的方法ト稱アリ、但シ有效ニシテ、副作用少キ、毒物無ク、妊婦爲ニ屢死ニ至ルモノアリ。

本邦ニ於テ、此ノ目的ニ使用セララル、民間藥(Volksmittel)ハ未ダ詳ナラズ、殊ニ其ノ作用ニ於テ然リ、麝香、口紅、水蛭、蝮ノ蔭干シ、蛇ノ串差シ、或ハ「ワカメ」ヒジキ、ノ如キ海藻ノ煎汁、又ハ酸漿ノ煮汁ノ如キモノ、人口ニ膾炙スルモ、コレ等ノ多クハ所謂家傳ノ妙藥ニシテ、其ノ用法スラ明ナラズ、或ハ多量ヲ用ヒテ始メ

犯法的墮胎

テ效ヲ奏スルモノモアルベク、或ハ全ク無效ナルモノモアルベシ。而シテ近年此ノ用ニ供セラル、幾多ノ通經劑ノ主成分ハ蘆薈(Aloe)ナリト云フ。
 泰西ノ民間ニ於テ、此ノ目的ニ用ヒラル、モノハ、芫菁、黃燐、麥角、其ノ他水銀、或ハ砒素劑等ナルガ、コレ等モ亦輒近漸々本邦ニモ使用セララル、傾向アルモノ、如シ。

(ろ) 外的方法 (Aeusserer Abtreibungsmittel)
 od. Mechanische Abtreibungsmittel

器械的方法

外的方法トハ、異物ヲ以テ、子宮ヲ器械的ニ刺戟シテ、胎兒ヲ驅出スルコトニシテ、内的方法ハ、效果概シテ不確實ナルガ故ニ、本邦ニ於テハ、大多數ハ之ヲ採用スルモノ、如シ。故ニ一ニ又之ヲ器械的方法ト稱ス、而シテ此ノ方法ニ種々アリ。或ハ單ニ下腹部ヲ打撲シ、或ハ摩擦スルモノアリ、或ハ外陰部ヨリ異物ヲ挿入スルモノアリ、或ハ又多少、助産術等ヲ學ベルモノニアリテハ、溫熱ヲ利用シテ、溫湯ヲ注入スルモアリ。

異物挿入法

外陰部ヨリ挿入セラレタル異物ハ、或ハ卵膜ヲ穿通シテ羊水ヲ漏出セシメ、

挿入用品及び其ノ副作用

或ハ膜ヲ破碎スルニ至ラズシテ、卵ト子宮粘膜トノ中間ニ介在シ、或ハ單ニ子宮頸(Cervix)内ニ介在シテ、若干時日ノ後其ノ目的ヲ達ス、而シテ此ノ用ニ供セラル、モノハ、泰西ニテハ、編物ノ金屬棒ヲ以テスルモノ多シト稱スレドモ、本邦ニ於テハ、「バララン」、「ツワブキ」或ハ柳等、種々ナル植物ノ葉軸、或ハ紙捻リノ糊ヲ以テ固メタルモノ等、比較的屈曲シ易キ柔軟ナルモノヲ選ブモ、亦竹箸或ハ樹枝ノ如キモノヲ用フルモアリ、而シテ此レ等ヲ使用スルモノ、多クハ、勿論、内陰部ノ解剖ニ暗キ老婆等ナルガ故ニ、屢々子宮壁ヲ傷ケテ出血ヲ起シ、甚シキモノハ、後壁、特ニ子宮底(Fundus uteri)ヲ穿通シテ腹膜炎ヲ起シ、又タトヒ傷ケズトモ、屢々細菌ヲ移入シテ種々ナル重症ヲ具發セシムルニ至ル。但シ胎兒ヲ傷ケルモノハ、比較的少キガ如シ。

墮胎ニ關スル探證

上記ノ如キ器械的墮胎用ニ供セラレタル物品ハ、多クハ長サ二、三寸ニシテ取出シニ便センガ爲ニ、其一端ニ絲ヲ附シアルヲ常トシ、往々其ノ家ニ殘存シ、又ハ挿入部ニ殘片ヲ止メテ、有力ナル證據物件トナル。又内服用品モ殘存シ居ルコト稀ナラズ、而シテ以上ノ企圖功ヲ奏シテ、死亡セル胎兒ハ、常ニ直ニ子宮外ニ驅出セラレズ、時ニ或ハ永ク、死亡ノ儘子宮内ニ殘留シテ、既ニ再三記載

犯法的墮胎

セル浸軟兒トナルコトアリ且ツ一般ニ人爲的墮胎ハ經過ハ偶發性ハ墮胎ヨリモ不良ナルヲ原則トス。

腹部ノ打撲ハ直接或ハ間接ニ胎兒ヲシテ死ニ至ラシメ以テ子宮ノ收縮ヲ促ス。腹部ノ摩擦ハ俗ニ胎兒ヲ「モミ」殺ス方法ト信ゼラル、モ恐ラクハ之レ亦子宮筋ノ攣縮ヲ催サシムルモノナルベシ。

丙) 墮胎ノ結果 (Resultat)

墮胎ノ結果

墮胎ノ結果ハ一般ニ甚ダ危険ニシテ屢婦女ヲシテ甚シキ衰弱ヲ來シ又ハ死ニ至ラシムルコトモ亦既ニ云ヘルガ如シ然レドモ遂ニ其ノ罪跡ヲ隱蔽シ得ルガ如キ場合モ亦稀ナラズ但シ常ニ子宮頸部其ノ他ニ於ケル損傷又ハ往往殘存スル挿入物ノ如キモノニ注意ヲ怠ルベカラズ胎兒ノ身體ニハ損傷ヲ生ズルコト殆ド稀有ニ屬スレドモ若シ存スレバソハ頭部ニ在ルヲ普通トス。而シテ一般ニ其ノ結果ガ爾他ハ墮胎ニ比シテ不良ナルハ私ニ之ヲ處理セハト欲シテ醫師ハ治療ヲ受ケズ又服用スル毒物ハ用量ハ如キモ不定ナルニ職由ス(素人療治)。

出血、化膿、其ノ他ノ副作用ノ各論ニ就テハ茲ニ説述セズコレ各自産科學ノ教科書ヲ参照スレバ自ラ明ナラント信ズルガ故ナリ。

増訂 法醫學 了

犯法的墮胎

邦ニ法醫學ノ專任教授ヲ置キ、又其ノ講座ヲ設ケタル最初ニシテ、今日ノ法醫學ノ基礎ハ實ニ此ノ時ニ於テ確立セルナリ。而シテコレハ翌十五年一月ヨリ刑法(所謂舊刑法)ノ實施セラル、ニ會シ、同法條中解剖或ハ醫事鑑定等醫師ニ待ツベキ項目ノ少カラザリシガ故ニ、俄ニ法醫學ノ必要ヲ感ジ、刑法ノ實施ト同時ニ之ヲ開講セント欲シタルニ基クト稱セラレ、司法卿大木喬任氏ノ斡旋ニ出ヅト云フ。

○同十五年一月ヨリ舊刑法實施サル。

○同年中、片山國嘉、江口襄、及ビ榊椒ノ三氏ガ共著トシテ「裁判醫學提綱」ヲ出版ス。

○同十六年中、長谷川泰氏、國政醫學研究會ヲ起ス(即チ今日ノ國家醫學會ニ匹敵スベキモノナラン)。

○又同年中、丹波敬三氏ノ著「裁判化學」世ニ出ヅ。

○同十七年八月、片山國嘉氏、獨澳ニ留學ヲ命ゼラレ、其ノ不在中、戸塚卷藏氏、暫時講座ヲ擔當セシモ、後間モ無ク、三宅秀氏代ツテ其ノ職ヲ襲ヘリ。而シテ此ノ間、醫學部本課第一、二學年級生ニ對シテハ、外科專門大學御備教師スクリバ氏

其ノ講義ノ任ニ當レリ。

○同二十一年十一月、片山國嘉氏歸朝シテ、大學教授ニ任ゼラレ、裁判醫學講座ヲ命ゼラル。而シテ法醫學ハ獨立專門ノ應用醫學タルコトヲ力説ス。

○同二十三年一月ヨリ、東京大學内ニ國家醫學講習科ヲ設置シ、汎ク醫師ハ入學ヲ許シテ、醫制、法醫學、衛生學、毒物學、精神病學、病體解剖式等ノ諸科ヲ教授ス。此ノ頃、裁判醫學會雜誌ナルモノ刊行サル。

○同年十一月前記裁判醫學提綱第二版ヲ出シ、法醫學提綱ト改題ス。

○同二十四年中、裁判醫學ヲ「法醫學」ト改稱ス。是レ法醫學ヲ裁判醫學ト云フハ法學ヲ裁判學ト云フガ如ク、單ニ其ノ一小部分ノミヲ指示スル不適當ナル稱呼ナレバナリ。此ノ年、片山氏醫學博士ノ學位ヲ享ク。是レ法醫學專門ハ博士アル最初ナリ。

○同二十六年ヨリ、片山博士東京帝國大學法科大學々生ハ爲ニ法醫學ヲ講ジ、特ニ法官並ニ辯護士ノ聽講ヲ許可ス。

○同二十七年十二月、片山博士譯「法醫學大成」第一冊成ル。本書ハホフマン氏ノ原著ヲ基礎トセルモノニシテ、後明治三十二年一月ニ至リテ、遂ニ全部六冊ヲ

完成セリ。

○同三十一年七月ヨリ現行ノ民法施行サル。

○同三十二年平賀精二郎氏、簡明法醫學ノ著アリ。

○同年六月東京醫科大學助教醫學士岡本梁松氏法醫學研究ノ爲、海外留學ヲ命ゼラル。

○同三十三年六月片山博士、ホフマン氏ノ法醫學圖譜ヲ翻譯シテ出版ス。

○同三十五年十一月岡本梁松氏歸朝シ、京都醫科大學教授ニ任ゼラレ、法醫學講座擔任ヲ命ゼラル。

○同三十六年一月ヨリ岡本梁松氏、京都醫科大學學生ノ爲ニ、假教室ニ於テ法醫學ヲ講ズ。

○同年六月東京醫科大學助教醫學士高山正雄氏官命ヲ帶ビテ法醫學研究ノ爲、海外留學ノ途ニ就ク。

○同三十七年四月二十九日岡本梁松氏、京都帝國大學總長ノ推薦ニヨリ醫學博士ノ學位ヲ享ク。

○同三十九年一月ヨリ岡本博士、京都帝國大學法科大學學生ハ爲ニ法醫學ヲ

講ズ。

○同年四月東京大學ハ法醫學教室新築落成ス、現今ノ建築物即チ之レナリ。

○同年八月高山正雄氏歸朝シ、福岡醫科大學教授ニ舉ゲラレ、同年十月ヨリ同學學生ノ爲ニ法醫學ヲ講ズ。

○同年十月一日高山正雄氏醫學博士ノ學位ヲ享ク、是レ左掲ノ學位請求論文ヲ提出セルニ基ク。

一、毒物學及ビ法醫學補遺(獨逸文)

一、ヘマトボルフィリン(試驗追加(獨逸文))

一、不明ナル血書及ビ唾液書ヲ鮮明ニ現出セシムル方法(獨逸文)

○同四十年三月ヨリ新刑法即チ現行刑法施行セララル。

○同四十一年七月片山博士著、最新法醫學講義總論(成ル、書中法醫學ヲ定義シテ、法醫學トハ即チ社會病理學ナリト云フ。

○同年中田中祐吉氏著、法醫學講義上下二卷成ル。

○同四十三年京都醫科大學法醫學教室ハ新築成リ、假教室ヨリ茲ニ移ル、現今ノ教室即チ是ナリ。

- 同四十五年片山博士著「法醫學鑑定實例」成ル。
- 大正二年十一月二十二日片山教授在職滿二十五年ハ祝賀會舉行セラル。
- 同三年十一月十一日東京法醫學教室ニ助教授タリシ醫學士三田定則氏醫學博士ノ學位ヲ享ク其ノ學位請求論文左ノ如シ。
過敏性シヨックノ輕重測定ニ「アナフィラキシー」性體溫降下ヲ應用スルコトニ就テ(獨逸文)
- 同五年中府立大阪醫科大學ニ法醫學教室ヲ設置スルニ決シ其ノ主任候補者中田篤郎氏ヲ海外ニ留學セシム是レ帝國大學以外ニ法醫學ハ教室ヲ設置スルニ決シタルモノハ嚆矢ナリ。
- 同六年三月法醫學年報第一號成ル。
- 同年六月田中祐吉氏著「續法醫學講義」出ヅ。
- 同年八月醫學士山上熊郎氏東北醫科大學法醫學教授候補者トシテ法醫學研究ノ爲海外留學ヲ命ゼラル之ニ就キ同年十一月醫學士石川哲郎氏同學講師ニ任ゼラレテ當分ノ間其ノ設備講義等ヲ擔當スルニ決ス。
- 大正七年八月東京醫科大學法醫學教室内ニ血清化學講座ヲ併置シ三田定

則博士ヲシテ其ノ教授ノ任ニ當ラシム。
○現今大正七年八月上記專門ノ教室以外ニ於ケル法醫學ハ講座及ビ其ノ講義擔當者左ノ如シ蓋シ各醫學專門學校ニ於テハ未ダ專任教授ヲ置キ得ベキ機運ニ達セズ大概病理學精神病學又ハ外科學等ノ教授ヲシテ講義ヲ兼擔セシメ居ルモノニシテ唯帝國大學ノ所在地ニ於テノミ專門家ヲ講師ニ囑託シツ、アリ(順序不同)

- 千葉醫學專門學校
- 新潟醫學專門學校
- 金澤醫學專門學校
- 愛知醫學專門學校
- 京都醫學專門學校
- 岡山醫學專門學校
- 熊本醫學專門學校
- 長崎醫學專門學校
- 臺灣醫學專門學校

- 森○理○紀○氏
- 川○村○麟○也○氏
- 中○村○八○太○郎○氏
- 谷○實○抱○氏
- 小○南○又○一○郎○氏(講師)
- 田○村○於○兔○氏
- 入○江○晃○氏
- 石○田○昇○氏
- 久○保○信○之○氏

東京慈惠會醫院醫學專門學校

三田定則氏(講師)

東京女子醫學專門學校

古畑種基氏(講師)

日本醫學專門學校

宮永學而氏(講師)

東京醫學專門學校

淺田一氏(講師)

明治大學法科(内定)

○國家醫學會ハ大正六年十二月ヲ以テ第三十一回總會ヲ開キ而シテ其ノ編輯ニ係ル月刊ノ國家醫學雜誌ハ今ヤ第四百號ニ垂ントス又片山博士在職二十五年祝賀記念品中ノ金一千圓ヲ動機トシテ成立セル日本法醫學會ハ大正七年四月ヲ以テ第五回ノ總會ヲ舉行セリ遮莫日本ノ法醫學ハ創設後日向ホ淺クシテ未知ノ問題徒ニ多ク偏ニ今後新進ノ士ノ攻究ヲ俟ツコト切ナリ

本邦ニ於ケル法醫學發達ハ跡ヲ年次ヲ追ヒテ列舉スレバ大約以上ノ如シ即チ明治ノ初年ニハ司法官ノ手ニヨリテ處理セラレテ其ノ存在甚ダ明瞭ナラザリシ法醫學ハ主トシテ現東京帝國大學醫科大學教授醫學博士片山國嘉氏

ノ盡力ニ依リテ明治十四年前メテ其ハ存在ヲ確立シタルモ尙ホ當年ニ在リテハ前代ノ惰力ニヨリテ單ニ司法ノ一部分ノミニ關與スル科學トノミ信ゼラレタル結果未ダ斷訟醫學或ハ裁判醫學等ノ稱呼ヲ用ヒラレシヲ漸次世人ノ蒙ヲ啓キテ司法ノミナラズ立法其ハ他社會一般ハアラユル法的事故ニ關聯スル醫學的事項ヲ攻究スル一ノ應用醫學ニシテ簡言スレバ正ニ社會病理學ト稱スベキモノナルコトヲ知悉セシメ遂ニ明治二十四年法醫學ハ稱ヲ定メタルモ亦主トシテ片山博士ノ功績ナリ故ニ其ノ在職二十五年祝賀ハ席上ニ於ケル大審院長法學博士男爵横田國臣氏ハ祝辭ハ一節ニ云フアリ

(前略)裁判上ニ得たる利益といふものは非常なもの、又單に裁判所ばかりでは御座いませぬ、總ての法律に於て、御座いまするが、就中私が刑法を編纂するに當つては、片山博士の御蔭に依つたことは幾らだか分りませぬ、云云

今ヤ帝國大學ニ所屬スル法醫學專門ハ教室ハ片山博士ノ創立ニ係ル東京ニ於ケルモノ、ミナラズ京都福岡並ニ仙臺ニモ順次ニ建設セラレ而シテ京都ニ於ケル創立者岡本博士福岡ニ於ケル創立者高山博士並ニ仙臺ニ於ケル創

立者石川學士何レモ皆其ノ門ニ出ヅ、從テ今後法醫學ヲ專攻シテ、其ノ進歩發
展ヲ期スルモノ亦何レモ同博士ノ恩惠ニ浴セザルハ無カラシ。片山博士ハ實
ニ日本法醫學ノ鼻祖ナリト云フベシ。(大正七年八月下旬稿)

附 録
日本法醫學小史了



第一圖

縊死者長時間懸垂セル場合ニ於ケル血液沈降状態 (第五十五、第百八十二頁等参照)

第二圖版

「リゾール」中毒者ノ口腔周圍（第八十五頁等參照）



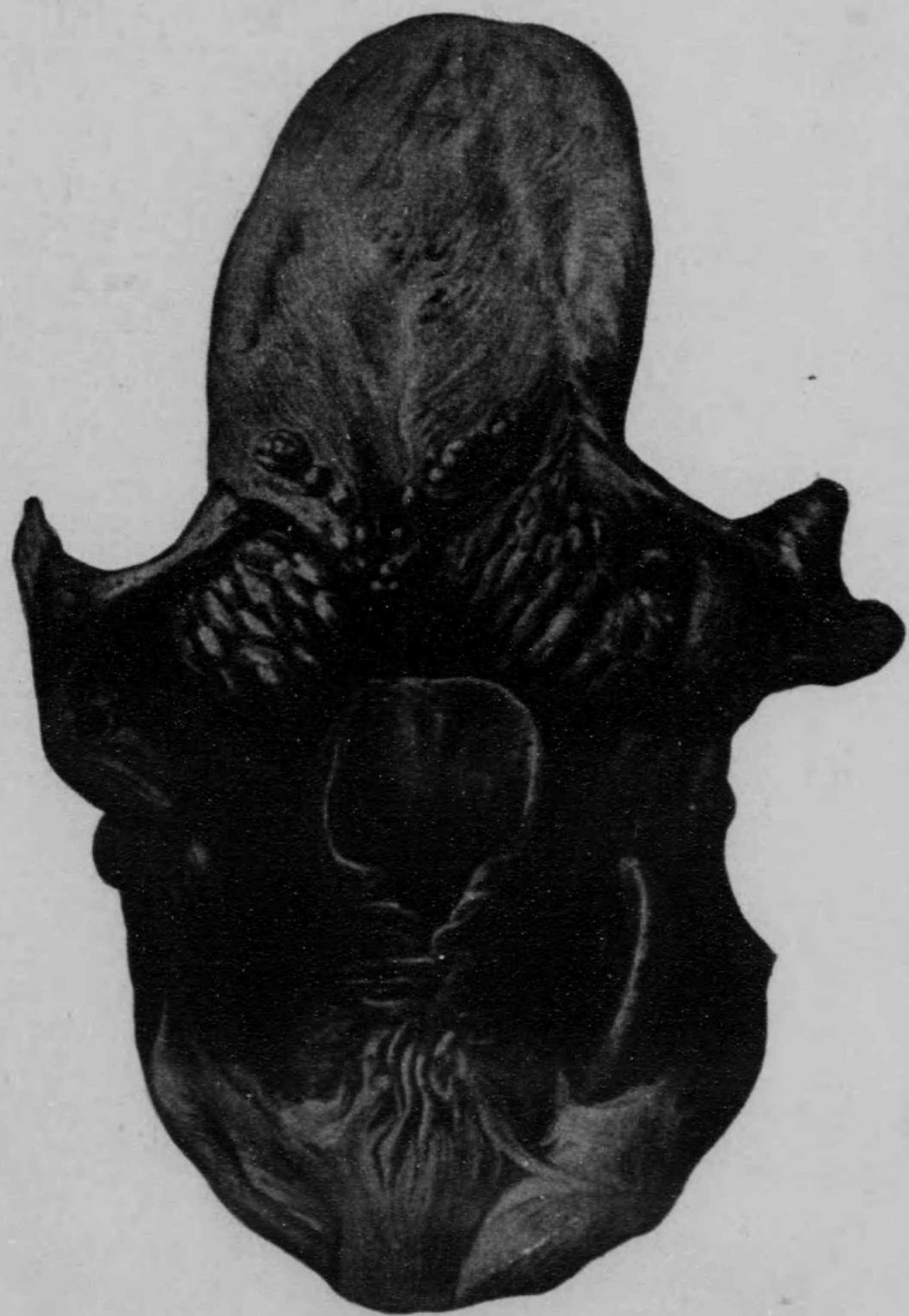


第三圖版

一酸化炭素中毒死者ノ皮色 (第八十五、第八十四頁等參照)

第四圖版

青酸加里中毒死者ノ咽喉部粘膜ノ色 (第八十六、第一百〇八頁等參照)



索引 (人名並ニ事物名)

A の部

Aloe 二六三
 Adler 氏檢法 六
 アルカリ 六六、七九、九〇
 アルカリ性ヘマチン 六九
 アルカリ性カルミン溶液 七〇
 アルカロイド 八、八九、九〇
 アボモルヒ子 九一、九二
 アトロピン 九三
 アコニチン 九四
 アンチピリン 九五
 アセトアニリド 九六
 アンチフェブリン 九七
 アザ(母斑) 九八
 亞砒酸 九九、一〇〇
 亞露 一〇一、一〇二
 アンモニア中毒 一〇三
 安死術 一〇四

B の部

瘡啞者 一五、一九、二七
 阿片瀟愛者 八
 Baechchi 三三
 Babo 三二
 Brücke 氏液 三三
 Berillon 一七、一九
 Berlioungge 一五
 Bieslau 一五
 煤煙 一四、一六、二四
 麥角 一四、一六、二四
 爆破銃創 一四、一六、二四
 微毒 一四、一六、二四
 微毒性小兒肺炎 一四、一六、二四
 晚期分挽 一四、一六、二四
 部分的責任能力 一四、一六、二四
 分挽 一四、一六、二四

分挽豫定日 一四六
 文身 一五三
 分裂方向 二九、四四
 分光鏡 六
 葡萄狀鬼胎 二四九
 ブルチン 九

ペ

ベルチロン氏法 一五三、一五五、一五九
 ベルチロン式寫眞 一五九
 ベツチ氏法 一三三
 ベンチマン檢法 六
 母體檢査 一五三、一五五、一五九
 剖檢 一五八、一六〇、一五五、一五九、一六〇
 勃起中樞 一三三
 膀胱直腸檢法 一五三
 防腐劑 一八
 Casper 一七、一八

C の部

五香

Hの部

Hofmann
Hoppe-Seler 氏檢法

五七、六、二五

非穿銃傷
表皮剝脫
漂母皮

二四、七、二四、一八

Iの部

I及I井

胃事鑑定人
胃腸浮揚試驗
胃腸型砒素中毒

一五、一五、一八

破瓜

半陰陽

破碎

ハロゲン原素

癩痕收縮

肺臟循環

鐵量檢法

浮揚試驗

肝臟血量檢法

肺結核

砒素鏡

砒素劑

砒素食食者

被害妄想

皮下出血

二五、二六、二八

保佐人

二六、二八

遺傳
遺言能力
遺棄ノ罪
淫樂の兇殺
陰部露出症
陰莖挿入
陰毛發生部
陰脣脫腸
インヂゴ―結晶

二七、二八、二九

縊死ノ死因

一酸化炭素中毒

一件記録

檢査法

Joesten

自殺統計表

磁氣性

人工的溢血點

チギタリン

實質毒

實性反應

耳翼

銃創

銃傷

銃創管

銃丸

内ノ異物

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

銃丸

二九

二〇

一七

二二

二六

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

銃器ノ種類

獸咬

一類ノ咬嚼

受胎能力

受胎不能

準禁治産

重婚

重クロム酸加里中毒

瘡瘡

Kobert

Kunkel

Konkurrenz der Todesursachen

鑑定人

鑑定書

刺創

鉗子分娩

間接死因

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

假性溢血點

四

一七

二二

二六

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

假性縫合

半陰陽

假死

感化院

角膜瀾瀾

乾燥

カンタリヂン

カフエイン

下齶骨

片山氏檢法

片山國嘉

火傷

火藥ノ種類

棺傷

廻旋銃創

過酸化水素檢法

過失傷害

過敏性反應

還元ヘマチン結晶

還元ヘモグロビン吸收線

吸收線

吸收線

吸收線

吸收線

吸收線

吸收線

吸收線

吸收線

吸收線

吸收線

吸收線

吸收線

吸收線

吸收線

吸收線

一五

二七

一八

一九

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

二八

二八

二八

二八

二八

二八

二八

二八

二八

二八

二八

二八

二八

二八

欠

射精	二三、三七	硝子粉末	八〇	タンニン檢法	二〇
射入口	四	昇汞中毒	八六、一〇〇	丹毒	一三四
射出口	四	食道狹窄	八七	胎兒	一四六、一五〇、一五八
射創管	四	證言能力	一三三、一九九、二〇一、二〇三	胎兒轉位手術	一四八
手淫	三九、三六	處分能力	二〇五	胎兒ノ心音	一四五
習慣性	八、四	處女	二二七	胎動	一四九、一五〇
終末呼吸	一三、二五	膜	一七、二六	胎垢	一四九、一五〇
酒精中毒	一〇〇、一三三	膜痕	一四、一五五	胎盤	一四四、一五二、一五六、一五八
尿酸中毒	六	小兒嗜好	二二	胎便	一四九、一五〇、一五二
出血	五三、一六〇、一六二、一八四	少年裁判所	一九	循環	一四九、一五〇、一五二
シヨック	一六、五三、三九、一〇三	漿膜下溢血	一四	胎便	一四九、一五〇、一五二
初産婦	一六、一四	職業	一三	炭化	一三
初生兒	二六	椀樹狀指紋	二七	タイヒマン氏結晶	一三
生活檢査	一四、一五	Tの部		高山氏試薬	一三
初乳	一五	Tod durch Strangulation	一七	高山正雄	一三
傷	二四	Tardieu 氏斑點	一五	「C」ヲ見ヨ。	一三
傷害	一八、二〇	Teichman	七	墜落死	一五〇、一六一
傷害ノ罪	元	答刑……答、音「チ」(Cノ部参照)	五三、二六、三九、一四、一八	分婉	一五〇、一六一
燒草	四	體質	五三、二六、三九、一四、一八	テ	九
硝酸中毒	七			テ	二八七

定期分婉	二四六	Weiher	二六	溶崩性壞疽	二八八	六、九
定期性躁狂	一九七	Weiss's Arsenik	一〇六	豫備試験(血痕)		三
癲癩類發症	一九七					
轉位手術	一四一	猥褻行爲	三五、三七、三九	Zの部		
凍傷	一七、二四、二五	ワイゲルト氏染色法	二六	Zaleski 氏法	ザ	一五
特異質	一八	Yの部		挫傷	サ	一三、一四
湯傷	二二	矢	一〇	挫創		一四、一六
統計	八三、三三、四六、五八、五九	藥物學的毒物検査	一七、二四	挫裂創		一三
痘痕	一七三	拒死	二四	座高		一七
Uの部		拒痕	二四	「J」ヲ見ヨ。	ジ	
Uhlenhuth	七四	有機酸中毒	六	「D」ノ「ツ」ヲ見ヨ。	ズ	
Ungar	三三	代創	四	ゼエステン氏法	ゼ	一三
ウングアル氏法	三三	孕胎能力	二四	前置胎盤	ゾ	一六
牛裂キノ刑	三三	不能	二五	續發性腐蝕		一七
Vの部		幼年者	一六、一八、一九、二〇、二一、二二、二六	象皮病		一七
Van-Deen 氏法	四	羊水	一七、二六	索引了		一七
Virchow 氏液	四	沃化水銀	一〇			
Wの部		溶血	一〇			
Waschhaut	二六					

跋

余は此の書を編するに方りて、なるべく學說を省略して、實地上の参考をなし得べき材料を蒐集するに努め、又書中の譯語の如きも、從來慣用せるものは勿論之を襲用せりと雖、其の刊行せられたる醫書或は醫學辭典中に未だ見出し得ざりしものは、多くは直譯を避けて意譯を用ひたり。これ等の事は稍々他の書物と其の趣を異にせるが故に、或は不可思議なりとなす人もあらんかと考へ、茲に一言の辯明をなさんと欲す。

言ふまでも無く法醫學は應用醫學の一分科なり。故に其の學說の如きは專攻者に在りてこそ必要にして、特殊の興味もあれど、多く

は將來之を運用する實地家たるべき醫學生諸君に對しては徒に
 了解に苦しましむる所多くして、利する所反て尠かるべきか、これ
 余が學説を省略せる所以なり。又譯字の如きは、たゞひ原語の意味
 を失ふことも、實際に適合して理解し易く且、記憶に便なる方が遙に
 實地家に對しては、有益なるべきを信じて疑はず、これ余が特に意
 譯を採用せる所以なり。

抑々余の本書編纂を敢てせしは、之を識者に示さんご欲したるに
 非ず。本邦に於ては、未だ廣く其の本態を知られず、稍々之を知るも
 の。雖、法醫學は基礎醫學の一分科なり。ご思惟するが如き現今の
 世に、聊かたりごも此の學問の知識を普及して、國家に益せんご
 は甚だ急務にして、しかも甘んじてかゝる陳吳の勞を執るもの、余

以外には斷じて之れ無きを確信したればなり。豈敢て自ら相當れ
 るものなりご云はんや、不肖乏を享けて其の職に在り、唯々奉公の
 一端を發露せしに過ぎざるのみ。世の法曹竝に醫家中一人たりご
 も、此の書によりて法醫學の一斑を了解するものありごせば、則ち
 余の本書編纂の望足る。茲に數言を註して跋文に充つご云爾。

大正六年四月稿を終りし日

落花繚亂の古都に於て

著

者 識

大正六年五月二十日第一版印刷
大正七年九月二十三日第一版發行
大正七年九月二十三日第二版印刷
大正七年九月二十三日第二版發行

正價金貳圓參拾錢

著者 高田義一

東京市本郷區本富士町二番地

發行者 今井甚太郎

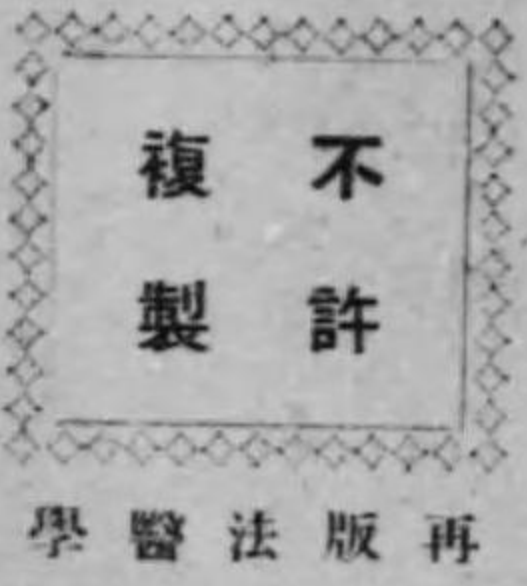
東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷者 櫻井新三郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷所 林舍

會社 杏林舍
(電話小石川七七九番)



發行所

東京市本郷區本富士町二番地
振替貯金口座東京二七九八一番
東京市本郷區龍岡町三十四番地
振替貯金口座東京四一八番

[電話下谷] 五五二番
[電話下谷] 一六七二番

吐鳳堂書店
克誠堂書店



京都帝國大學醫科
大學法醫學教室 醫學士 高田義一郎著

註釋

診斷檢案鑑定書例

附法醫學的檢査法

全一冊
四六判五百五十餘頁
紙質上等本綴裝
正價金貳圓五拾錢
郵稅內 地金八錢
臺灣郵支 金拾貳錢

醫師が業務上ノ義務及權利トシテ自己ノ意見ヲ文書ノ上ニ現ハス可キ場合極メテ多シ諸
種ノ診斷書、檢案書及鑑定書ノ如キ即チ是ナリ。是等ノ書式作例ハ成書ノ上ニ具體的ニ
明示スルモノ極メテ稀ニシテ偶々之アルモ唯ダ其梗概ヲ指摘スルニ過ギズ。初メテ業ヲ
卒ヘテ校門ヲ出ヅル新進醫家ガ實地上往々困難スルコトアリトハ屢々耳ニスル所ナリ。
而モ診斷、檢案、鑑定書ノ不完ハ其影響スル所甚大ニシテ其形式内容ノ如何ニヨリテハ
醫師本然ノ意見ヲ十全ニ表白スルヲ得ザルノミナラズ、官公署ニ提出スル場合ノ如キハ
其結果測リ知ル可カラザルモノアリ。醫家ガ業務上作製スル文書豈ニ忽諸ニ附ス可ケン
ヤ。本書ハ京都帝國大學法醫學教室ニ於テ日常這般ノ醫務ニ執筆サル、高田醫學士ガ非
常ナル注意ト努力ヲ以テ公務ノ餘暇編纂サレシモノニシテ以上ノ要求ヲ充タスニ於テ殆
ド間然スル所ナシ。果然本書ハ新ニ診斷檢案鑑定書學ノ領域ヲ定ムルモノニシテ又醫師
ガ法の公生活ノ指針トモ謂フヲ得ベシ。猶一面ヨリ見レバ實踐法醫學教科書ニシテ平ク
云ヘバ**診斷檢案及鑑定書例題集**ナリ。本書中特ニ記述セル法醫學的檢査法ハ細大漏サズ
之ヲ網羅シテ恰モ法醫學小辭典タルノ觀アリ。苟クモ醫家ガ學術上ヨリスル神聖ナル意
見ヲ最モ誠實ニ最モ精確ニ最モ合理的ニ表白スル文書ノ作成ハ醫家ガ公衆道德上ノ責任
ヲ遺憾ナク盡ス上ニ於テノ一大義務タルト同時ニ又一重大權利ナリ。

60
382

終